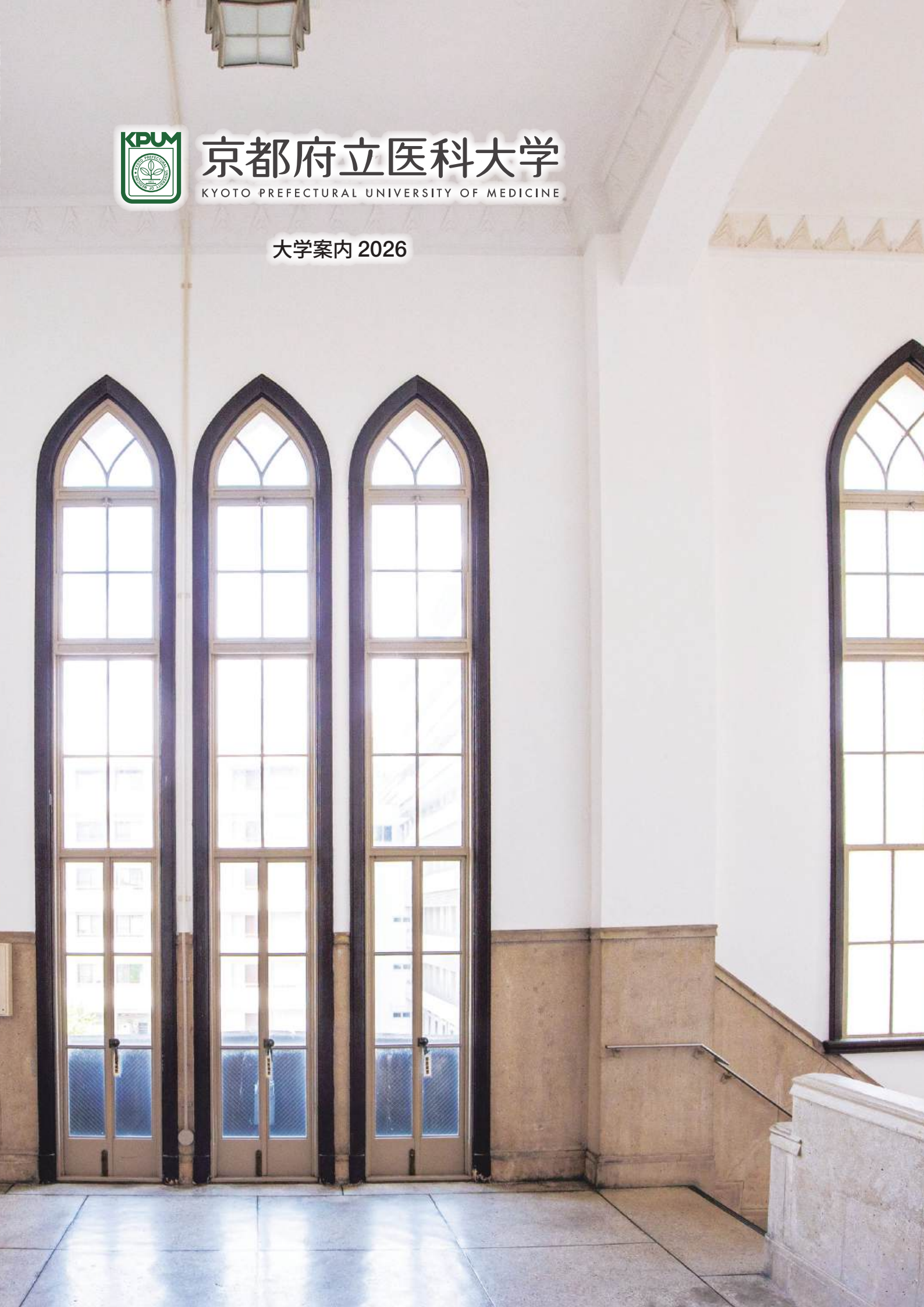




京都府立医科大学

KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY OF MEDICINE

大学案内 2026



世界トップレベルの医学を地域へ

京都府立医科大学は、近代的西洋医学の導入を願った京都府民の寄附により、1872年（明治5年）京都東山の青蓮院に開設された「療病院」で診療と医師の育成を始めたことに由来する、我が国でも有数の歴史を誇る医科大学のひとつです。2021年（令和3年）には大学昇格100周年を、2022年（令和4年）には創立150周年を迎えました。

本学は医学科と看護学科からなる医科大学です。医学及び看護学に関する知識及び技能を受け、有能な医師、看護師、保健師及び助産師となるために必要な教育を施すとともに、医学及び看護学の深奥を究めて、文化の進展

と人類の福祉とに寄与することを目的としています。「世界トップレベルの医学を地域へ」を理念とし、高度の専門的な知識・技術の修得はもとより、高い倫理観と幅広い教養を備えつつ地域の医学・医療に取り組み、その成果を地域から世界へ発信できる優秀な人材を育成・輩出してきました。

医学科では、単なる医療を施す医師、研究者の育成ではなく、社会の指導者としての人材を輩出することが本学の使命であると考えています。従って、本学設立の礎である「療病院」の開設以来、一貫して、幅広い教養と専門に必要な基礎・医学教育との連携を重視しています。





また看護教育の歴史も長く、1889年（明治22年）の附属産婆教習所の開設から130年を越え、京都府をはじめ全国において看護の発展に寄与してきました。この歴史の中で培われてきた心と技術と知識のバランスがとれた看護職者を育成するという精神は、現在の看護学科にも継承されています。

このように、長い歴史に培われてきた叡智に加えて、最先端の知識・科学を取り入れた医学および看護学教育を提供します。単科大学ゆえに教員と学生との距離は近く、様々なことがらに親身になって相談に乗ってもらえることも本学の大きな特徴です。このような京都府立医科大学が皆さんを待っています。

CONTENTS

世界トップレベルの医学を地域へ	01
学長メッセージ	03
大学沿革	05
医学部医学科	07
医学科の教育方針	08
カリキュラム概要	09
在学生の声	13
卒業生の声	14
医学部看護学科	15
看護学科の教育方針	16
カリキュラム概要	17
保健師・助産師コース紹介	19
卒業後について	20
在学生の声	21
卒業生の声	22
大学院	
医学研究科	23
● 医科学専攻（修士課程）	
● 統合医科学専攻（博士課程）	
保健看護学研究科	24
● 保健看護学専攻	
（博士前期課程・博士後期課程）	
キャンパスライフ	
府立医大の1年	25
クラブ活動	
学生の1日	27
地域に学ぶ	29
国際交流	30
大学概要	
教育スタッフ	31
数字で見る府立医大の「実力」	33
研究活動	
教育・研究施設、附属・関連施設紹介	35
卒業後の進路、減免・奨学金制度等	37
入学試験情報	38
キャンパスマップ・交通アクセス	39

京都府立医科大学 学長 夜久 均

1957年 大阪生まれ
1982年 京都府立医科大学卒業
1984年 国立循環器病センター心臓血管外科レジデント
1988年 国立循環器病センター研究所研究員
1990年 Vermont大学 (Burlington, USA) 研究員
1993年 St. Vincent's Hospital (Sydney, Australia) 心臓胸部外科
1997年 京都府立医科大学帰学
2004年 京都府立医科大学心臓血管外科学教授
2019年 京都府立医科大学附属病院長
2023年 現職

学長メッセージ

古都京都の歴史ある大学で 最先端の医学医療を学びませんか？

皆様、こんにちは。

この大学案内は、京都府立医科大学への進学をお考えの皆様、そして医学・看護学・医療に興味を持っておられる皆様へ、当大学の魅力・強み・特色を知っていただくために作成しました。

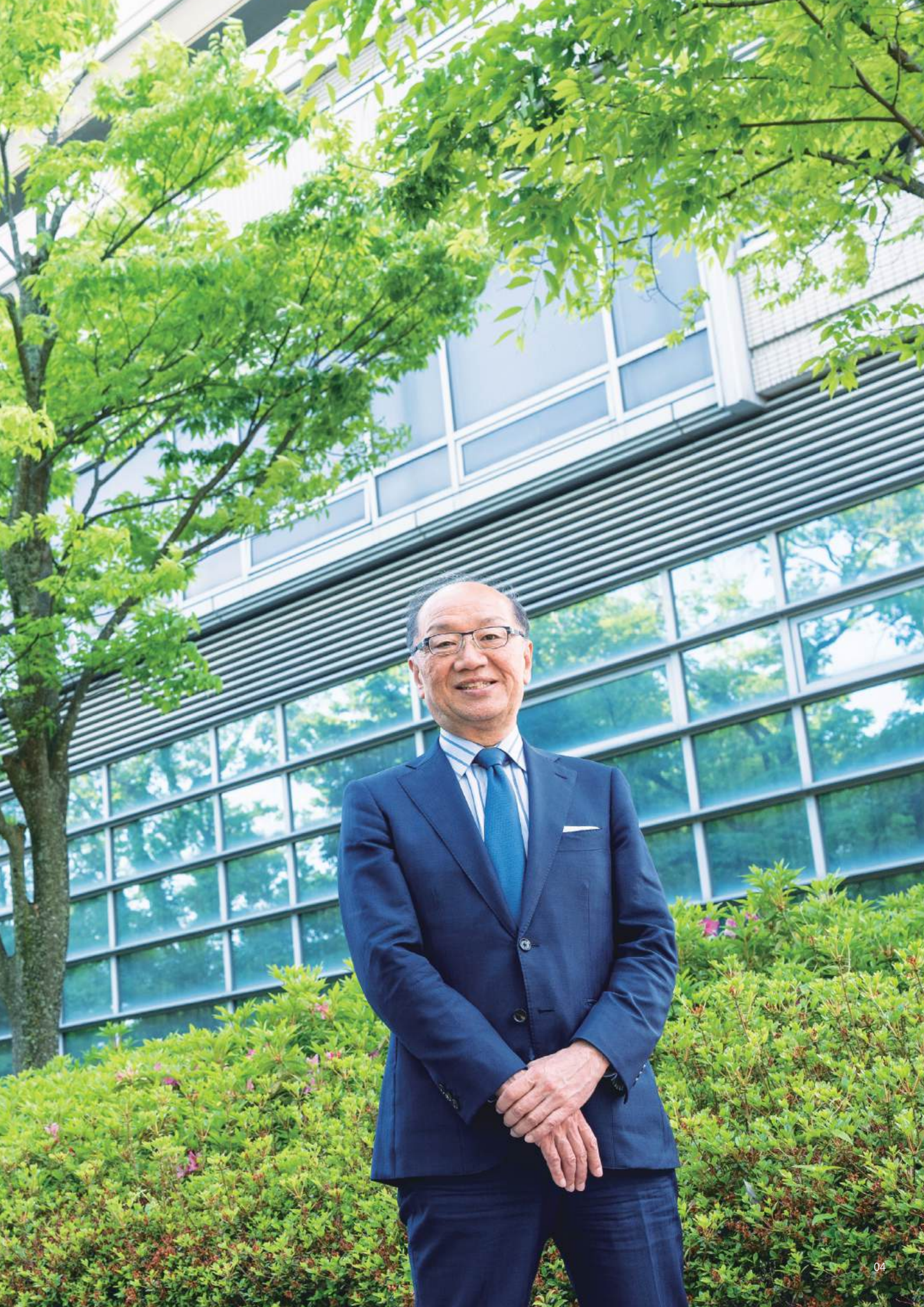
京都府立医科大学は1872年(明治5年)に東山粟田口にあります青蓮院に療病院として設立されました。2022年に創立150周年を迎え、日本でも屈指の歴史を誇る大学です。当時、明治維新の混乱の中、また天皇が東京に移られた後、京都府民の心にぽっかりと空いた穴を埋めるように、府民の期待を一身に背負って設立されました。鳥羽・伏見の戦いで負傷した藩士を見事に治癒に導いた西洋医学を目の当たりにした先人達の設立に対する信念は、「世界トップレベルの医学を地域へ」という大学の理念に引き継がれています。

150年余りの歴史の中で、国立への移管を拒否し、あくまでも公立であることに拘り、自由な学風を保ちながら高度な教育・研究・診療を行い、地域課題に取り組んでまいりました。また看護学の教育も明治22年から始まり多くの看護師を輩出してきました。このような歴史的背景から「府立医大」「府立医大病院」と呼ばれ、京都府民の皆様から絶大な信頼をいただいていると自負しています。

大学の運営方針は、医学の分野で世界に伍する研究大学であること、また同時に特色ある地域中核研究大学であることを軸とし、それを実現するために世界トップクラスの研究・臨床を世界に発信し、そして地域へ還元・展開をしています。また大学使命の根幹である人材育成に関しては学修者本位の教育を目指して、必要に応じて教育プログラムの改変を行っています。何を教えたかではなく、何を学び、何を身に付けたかを確認しながら、明日の医学・医療を担う、世界へ羽ばたける人材を輩出しています。

現在、我々を取り巻く地球環境・社会環境は目まぐるしく変化しており、地球温暖化、気候変動、自然災害、また国内においては人口減少、少子高齢化、それに伴う疾病構造の変化、もちろん新興感染症のアウトブレイクのリスクはグローバル社会においては少なからず存在します。そのような未来環境の中で、医学・医療そしてそれらを含むヘルスサイエンスはなくてはならない分野になってきます。私たち京都府立医科大学は、医学・看護学の分野において新たな一歩を踏み出したいと考えている皆様に全力で応援します。是非あなたの情熱と意欲をもって受験に挑戦してください。私たちはあなたの可能性を信じ、仲間になっていただけることを期待しお待ちしております。

Yoshiaki Habu



大学沿革

京都府立医科大学は1872年(明治5年)に設立されて以来150年の歴史を誇るわが国でも最も古い医科大学の一つです。

本学の設立に至る経緯は極めてユニークなものです。1868年(明治元年)から京都府を通じて西洋医学の教育病院を設立したいと願っていた京都府民は、自らの寄附によって、京都東山の青蓮院の境内に病院を建て、そこにドイツ人医師を講師に呼んできたのです。多くの医科大学・医学部では、まず大学などの教育施設ができ、その研修の場として附属病院が作られましたが、本学においては、府民の医療を第一とする病院がまず作られ、次にこの病院での医療・医学を担う人材を養成する場として大学が位置付けられました。

1871



明石博高医師



瘡病院建堂の告諭

1880

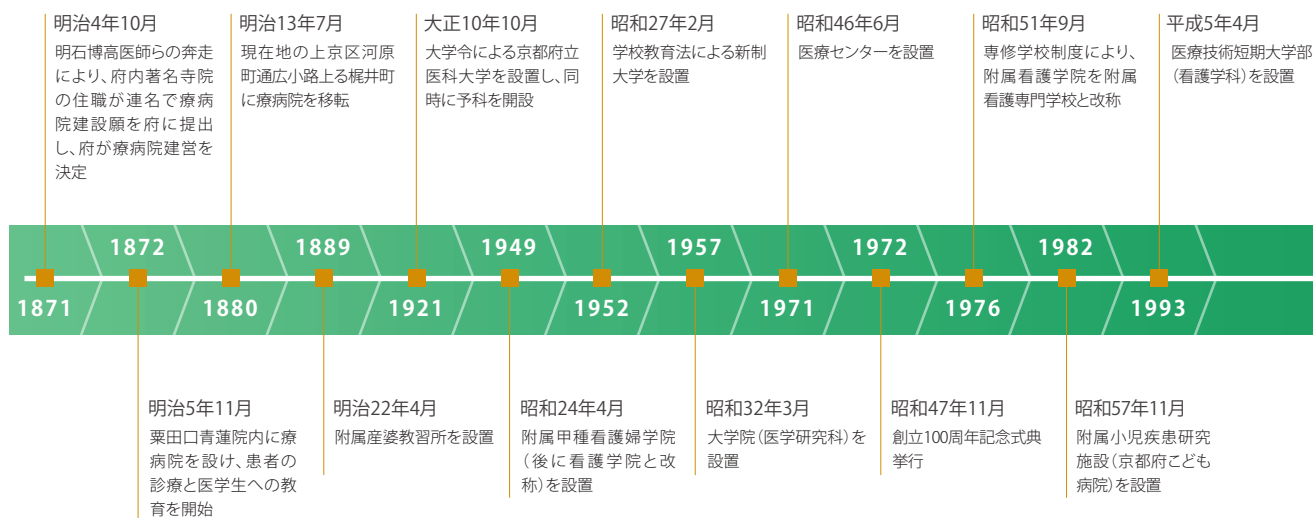


療病院碑

1921



創立50周年・大学昇格記念式典



1872



假療病院(青蓮院宸殿)

1929



中央図書館【旧 附属図書館棟、現 大学本部棟】

1952



新制京都府立医科大学

また、看護学科は1889年(明治22年)に設置された附属産婆教習所に始まり、附属看護専門学校、医療技術短期大学部などの変遷を経て、2002年(平成14年)から医学部看護学科として設置されています。

設立以来、本学は地域社会の要請に応えることのできる優れた医療人、研究者を養成するという使命を担い、今日に至るまでこの設立方針が堅持され、府民から絶大な信頼が寄せられています。

1993



医療技術短期大学部棟【現看護学学舎】

2013

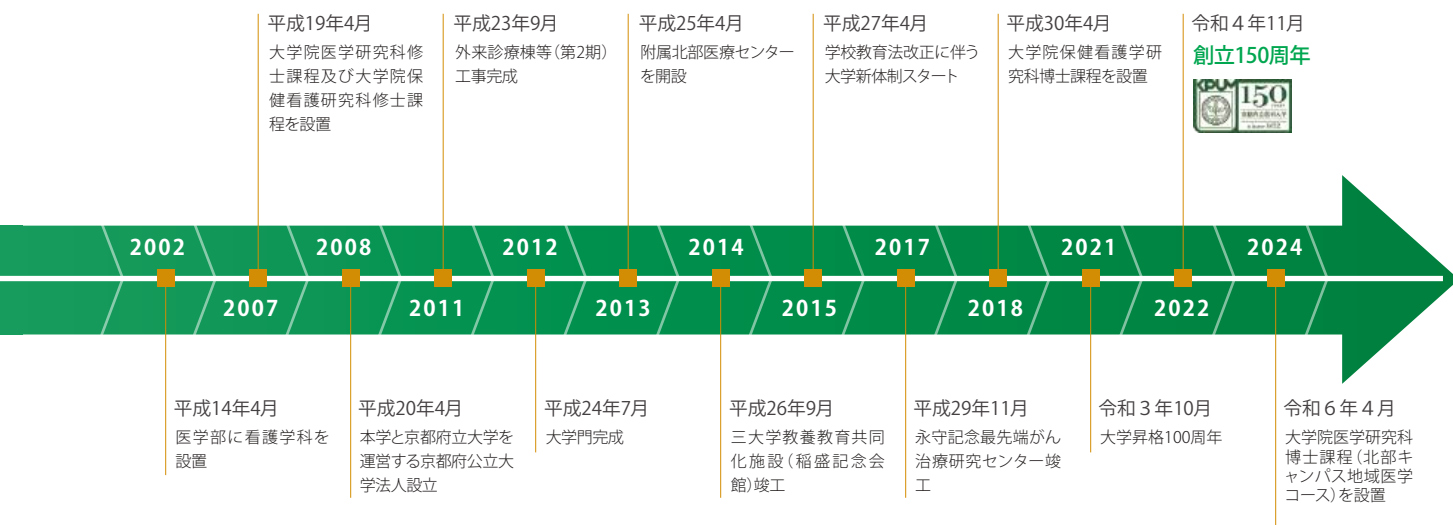


北部医療センター

2022



創立150周年 大学本部棟



1972



創立100周年記念式正面

2012



大学門

2024



博士課程(北部キャンパス地域医学コース)設置

医学部

医

学

科

School of Medicine

医
学
科





医 学 科 の 教 育 方 針

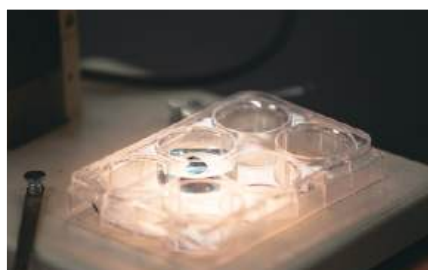
京都府立医科大学は、1872年（明治5年）に設立された「療病院」を起源とする日本最古の医科大学の一つであり、開学から現在までの150年間に1万2千人を超える医師・医学研究者を国内外に輩出してきました。本学の長い歴史と伝統に磨かれ形となったのが本学の理念「世界トップレベルの医学を地域へ」です。医学科では、幅広い教養、高い倫理観、高度の専門的知識・技術を有しプロフェッショナリズムを持ち合わせた優れた医師・医学研究者を育成するとともに、探究心旺盛で多様なニーズに対応でき、国際的に通用する人材を育成することを教育の使命としています。令和4年度に日本医学教育評価機構の医学教育分野別認証（2巡目）を受審し、令和5年に認証を受けました。令和6年度には大学教育質保証・評価センターの大学機関別認証評価を受審し、認証されています。「国際認証型」のカリキュラム教育を実施するなかで、「平成28年度改訂医学教育モデル・コア・カリキュラム」に収載の1790の履修項目を全てカバーし、これに教養・医学基盤、基礎・社会医学、臨床医学の各学体系を基盤とした独自のカリキュラムを加えて、医の心から最新の医学・医療まで広く学べるようにしています。加えて、基礎・社会医学教室の研究配属、京都府中北部地域の中核的な病院での地域医療実習、さらに欧米、アジアを含む海外における交流協定を締結している大学への臨床実習派遣など、様々なプログラムが用意されています。学生と教員との距離が近いことも本学医学科の特色です。歴史と伝統の誇りを持ちつつも自主自立を旨とし、学生一人一人の視点や価値観を尊重した自由・闊達な学びの環境を提供します。以上のような教育方針を十分に理解され、生涯にわたって学び自己研鑽し、医学・医療・社会に貢献しようという高い志をもった若者を、医学科は求めています。

カ リ キ ュ ラ ム 概 要

卒 前 ～ 卒 後 一 貫 教 育 プ ロ グ ラ ム

学びの街・京都の恵まれた環境に広がる、河原町、広小路、下鴨、北部の4つのキャンパス。設立以来、脈々と受け継がれてきた教育理念のもとに、歴史と伝統に培われた独自の基礎・臨床医学の統合カリキュラムによって、新たな時代を拓く医師及び医学研究者を育成しています。

入 学	第 1 学年		第 2 学年		第 3 学年	
	I	II	I	II	I	II
	教養・医学基盤教育 早期体験実習		基礎医学 (講義・実習)		臨床医学 (講義・演習)	
	三大学教養教育 合同講義				ユニット講義	
縦断講義			教養英語・医学英語			



教養・医学基盤教育(下鴨キャンパス)

教養・医学基盤教育では、人類が築き上げてきた知の体系を学ぶと同時に市民としての自己を確立することを目指します。また、医学を学ぶための基盤教育も行います。将来、医師・医学研究者となる医学生は、語学や自然科学の基盤的な学力を養うと同時に、人類・世界の未来を担う幅広い教養と視野を持ち、他者を理解するコミュニケーション能力を養うとともに、現代の諸問題を理解するための知識とその解決策を探る判断力を培う必要があります。本学附属病院での早期体験実習や基礎・社会医学系研究室で、自ら考え主体的に研究に取り組む実習カリキュラムも用意されています。



入学～卒前臨床実習～卒後臨床研修までの8年間をサポート

基礎医学

基礎医学は人間の体の構造と機能を究明する学問であり、医学・医療の根幹をなす分野です。生命現象がどのようなメカニズムで精密に制御され調和を保っているのかを分子、形態、機能の多角的側面から学びます。さらに、このような制御や調和が乱れて修復できなくなった時、疾病が起こるということを理解します。第2学年で解剖学、生理学、分子医科学、病理学、感染病態学、免疫学及び薬理学を学修し、臨床医学を学ぶ基礎を築きます。

臨床医学

臨床医学の進歩はめざましく、臨床医には高度に細分化された専門知識と技能が要求されています。同時に、それらを統合して受け止め、幅広い理解の下に臨床医学を実践できる能力も必要です。本学では、このような資質を持った医師の育成を目指して臨床医学の教育を進めています。また、附属病院が誇る世界トップレベルの最先端医療に触れることにより、医療の持つ無限の可能性を感じることでしょう。



天谷教育センター長からのメッセージ



みなさんこんにちは。京都府立医科大学医学部教育センターの天谷です。

京都府立医科大学は建学以来150年にわたりすぐれた医療人材を育成してきました。その伝統をよりよい形で次世代へつなぐことが教育セン

ターの使命です。センターには専任教員5名、兼任教員7名が所属し教育関連業務にあたっています。運営会議には学生も参加し、その意見を教育に反映しています。

医療人としてのすばらしい人生を本学の魅力的な学びからはじめてみませんか。

(麻醉科学教室 教授 天谷 文昌)

コラム

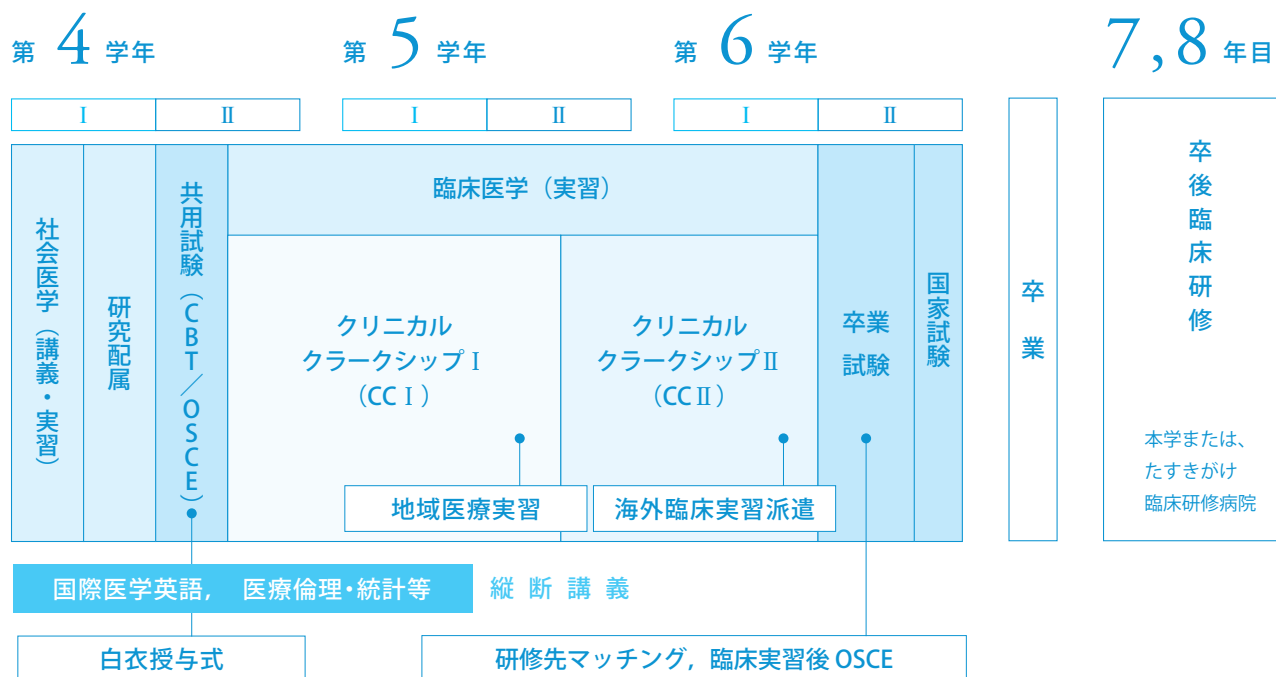
1

臨床現場を早期に体験

第1学年は主に下鴨キャンパスで学びますが、その間に2回、附属病院を併設する河原町キャンパスでのカリキュラムが予定されています。1回目は6月の早期体験実習Ⅰ、2回目は12月の早期体験実習Ⅱです。早期体験実習とは、いわゆるEarly Exposureとして医学生の早い段階から臨床現場や研究の現場に触れる実習です。実習Ⅰでは附属病院内のメディカルスタッフ(病棟看護師・検査技師・薬剤師等)に帯同し、いわゆる業務シャドーイングを通して実際の仕事を体感します。患者の側から一歩足を踏み出し、働く側に身を置くことを体験するのです。実習Ⅱでは、基礎医学系・臨床医学系の各教室に配属され、研究者、研修医・医師をロールモデルとし自らの将来を考える機会とします。いずれもきつとあなたの夢をより身近に感じさせる貴重な機会となるでしょう。

カ リ キ ュ ラ ム 概 要

卒 前 ～ 卒 後 一 貫 教 育 プ ロ グ ラ ム



社会医学

保健・予防医学では、分子レベルの手法から人々を集団として捉える疫学的手法まで、様々な方法を活用して社会との関わりにおける健康課題の解決を目指します。また、法医学では、現代社会における犯罪の複雑巧妙化、死因不明死体の増加、死因の複雑化、虐待事案の増加、医療関連死の増加など、数々の社会問題への評価・対応を法律的及び医学的視点から学びます。



入学～卒前臨床実習～卒後臨床研修までの8年間をサポート

CBT/OSCE

第4学年の秋には、全国レベルの統一テストであるCBT (Computer-Based Testing) と、臨床実技の試験であるOSCE (Objective Structured Clinical Examination)を受験します。両者に合格し、全ての臨床医学科目の座学の履修を完了すると「臨床実習生(医学)」(Clinical Clerkship Student)の認定証が交付され、臨床実習への参加が許可されます。

白衣授与式

「臨床実習生(医学)」に認定された者には、「白衣授与式」で大学のロゴマークの刺繍のついた白衣が学長から授与されます。学生たちは身の引き締まる思いで白衣に身をつつみ、附属病院での臨床実習に臨みます。

臨床実習(クリニカルクラークシップⅠ・Ⅱ)

第4学年後半から始まる臨床実習では、医療チームの一員となって医療現場を経験し、様々な疾患の病態や診断・治療を学びます。臨床実習で得られる知識や技能はとても大切なものです。

CCIでは少人数の班に分かれてすべての診療科や部門をローテートし、主に外来や入院の患者を対象とした実習を行います。ここでは単に暗記した知識だけで対応するのではなく、自ら問題を見出し、自ら問題を探究・解決するという姿勢が求められます。また、医師が患者や家族といかに関わっていくべきかを学びます。

後半のCCⅡでは、主として本学の教育関連病院で実習を行い、大学病院とは異なる臨床現場を経験します。各病院の担当医は本学の臨床教授等を兼ねており、大学と教育関連病院が一体となった有機的な臨床実習が行われています。



コラム

2

基礎医学研究へいざなうウェルカムイベント

第1学年の5月頃、基礎医学研究に携わる教室が一堂に会し、大学生のうちから研究に取り組みたい人に向けて、各教室で行われている研究内容をわかりやすく解説するイベントを行っています。これに参加したことをきっかけに、多くの学生が興味のある研究室を見つけて課外活動として基礎医学研究に携わり、学会発表や論文発表を行います。医学研究者やPhysician Scientistの養成にも力を入れています。

在 学 生 の 声



医学科 第1学年

清水 雪花 (京都府・京都府立洛北高等学校出身)

所属クラブ：卓球部、京都大学吹奏楽団

第1学年では主に下鴨キャンパスで教養教育の授業を受けます。医学に直結することにとどまらず、医師になる上で重要な教養を幅広く身に付けます。一部の授業は京都府立大学、京都工芸繊維大学と合同で行われ、文系理系問わず、さまざまな講義の中から自分の興味のある分野を選択し、知見を広げることができます。理科系実習などでは自分たちで実験を行い、医学科の他学生と意見交流しながら考察を深めます。先生方が優しくサポートして下さるので、無理なく取り組むことができます。6月には附属病院で早期体験実習があり、自分の将来について考えるきっかけになります。

また、京都府立医科大学では部活動も盛んに行われています。入学後すぐ、たくさんの部活で新入生歓迎会が開かれ、それぞれの部活の雰囲気を経験できます。どの部活でも、先輩方は優しく丁寧に教えて下さるため、新しいことにも挑戦しやすいです。部活動を通じて医学科の先輩方との繋がりができ、大学についてさまざまなことを教えていただけます。

本学では、同じ志を持つ仲間と協力しながら、熱意ある先生方のもとで学ぶことができます。皆さんが本学に入学し、共に学べることを楽しみにしています。

医学科 第3学年

吾妻 隆一良 (京都府・東大寺学園高等学校出身)

所属クラブ：ヨット部

第3学年では、河原町キャンパスで臨床医学を学びます。外科、内科問わずさまざまな疾患と、それらに対する治療法や予防法などを体系的に学びます。第2学年で習得した解剖学や生理学などの基礎医学の知識が臨床医学を学ぶことによって繋がれ、臨床現場に近い知識として生きてくるため、学びがより実践的になります。実際の現場での映像などを交えながら教えて下さるので大変興味深く、また楽しく学ぶことができます。先生方も親身になって質問を受け付けて下さるなど学びやすい環境が整っており、熱意をもって勉学に励むことができます。

京都府立医科大学は授業だけでなく学外の学びの機会にも恵まれ、サポートも充実しています。実際に私も2年次の解剖学実習の授業で見つけた所見をもとに学会発表を行いました。その際には先生方や同級生をはじめ多くの方々からお力添えをいただきました。この経験は、その後の学修の貴重な糧となりました。

部活動が盛んなところも本学の特長です。私はヨット部に所属しています。先輩・後輩とのつながりだけでなく、西医体などを通して他学生とも交流できることが部活動ならではのよさです。

京都府立医科大学で勉強、部活動、課外活動などさまざまなことに挑戦しながら、有意義な学生生活を送られることを楽しみにしています。



医学科 第6学年

清田 倫太郎 (岐阜県・岐阜県立斐太高等学校出身)

所属クラブ：全学学生自治会、総合芸術部(劇団明日の鳥)

京都府立医科大学に再受験生として入学し5年が経ち、第6学年となりました。現在は第5学年の後半から第6学年にかけて行うCCⅡという臨床実習の最中です。Student Doctor制度が公的化されたことにより、学生でも実習の際にさまざまな医療行為ができるようになったため、実践的な経験を得ることができます。また、この臨床実習の期間には海外の大学で実習を行うこともでき、多くの学生が留学を経験しています。

本学では学業以外でもさまざまな経験をすることができます。私が在学生生活の中で最も力をいれたことは全学学生自治会の設立とその運営でした。4回生の時に元々医学科だけの学生自治組織を看護学科や各部活動、学園祭など全ての組織を統合させた形へと再編成しました。再編成と運営に関して多くの困難がありましたが、学生の皆さんや大学の先生方、職員の方々にたくさんの協力をしていただき、無事に次の世代へ引き継ぐことができました。

本学ではどんな学生でもさまざまなことに挑戦することができ、それを多くの人がサポートしてくれます。これは京都府立医科大学だからこその良さのひとつだと思います。新たに入学される皆さんにとって実りのある6年であることを願い、同じ医療人として出会えることを楽しみにしています。



卒 業 生 の 声

昭和30年卒業 藤田 哲也 (本学元学長)

ルイ・パストゥール医学研究センター 分子免疫研究所シニア・フェロー

昭和52年朝日賞、平成2年島津賞、平成8年紫綬褒章

誇らしき哉、わが母校

私が京都府立医科大学を常々誇らしく思うのは、その創立以来一度も中断することなく続いた歴史が150年にも及び、これが東京大学医学部創立に遅れること僅か3年で創立された医学教育機関として、本邦第二位であり、卒業生の数もそれに比例して多いというような物理的な数値だけを意識しているわけではありません。

私は、母校の卒業生が実に多彩な分野で活躍しているということを最も誇らしく思っているのです。国内だけでなくアメリカやドイツなどの有名な大学で傑出した活躍をしている教授や研究者たちもおれば、臨床家でありながら岩波文庫で近代詩集を残した詩人、映画監督として一流になった人、作曲家兼演奏家として一世を風靡したのち医系の大学教授になった人など、わが母校がいかにリベラルな人間らしい教育をしてきたか、如実に証明していると思っています。当然でしょうが、臨床医師として京都府を中心に活躍している人の数は一番多く、この意味で母校が地域医療に貢献している程度は、全国の医系大学では最高であることに間違いはありません。一方、看護学科も実は、明治22年、日本政府公認の産婆教習所の開設以前に、明治5年から療病院で、ドイツ人医師コンケルが看護師(助産師含めて)の教育を始めており、これは疑いもなく日本で最初の洋式看護学教育の始まりを告げるものでした。私が母校、京都府立医科大学を卒業したのは昭和30年でしたから今年で69年になりますが、私が直接目撃してきた母校の発展ぶりに、毎日、大きな誇りを感じているこの頃であります。



昭和63年卒業 大谷 直子

大阪公立大学大学院医学研究科 病態生理学 教授

今に生きています、京都府立医科大学で得たもの

私は学生時代に生化学の講義で、当時米国から帰国直後の先生から最先端のがん研究の話を聞き、研究に強い興味を抱きました。それがきっかけとなり、内科研修後、基礎医学者の道へ進み、海外留学も2回経験し、現在に至っています。在学中は部活動と勉強、研究に打ち込み、充実した毎日でした。このころに身につけた体力や粘りが、その後の研究と子育ての両立にもつながっていったと思います。若い皆様にはぜひ、いろいろなことにチャレンジし、世界を見据えた医療人を目指してほしいと思います。



平成2年卒業 市川 大輔

山梨大学医学部 外科学講座第一教室 教授

京都から世界へ

卒業後は、附属病院や多数の関係病院で多くの先輩方から教えを受け、数多くの手術症例を経験する機会に恵まれました。また、同窓の先生方が、「医療」だけでなく基礎研究や臨床研究など「医学」分野においても、学内のみならず国内外で活躍されており、そのネットワークは我々の誇りです。歴史溢れる京都の街で豊かな人間性を育みながら、歴史と伝統を備えた本学で学び、国内外で良き医療人として活躍されることを願っております。



平成31年卒業 本田 水月

京都府立医科大学附属北部医療センター 病理診断科

成長を支え続ける学びの基盤

身近に医師がいない環境で育った私は、将来のキャリアを明確にイメージすることができないまま、平成25年に地域枠(現在の学校推薦型選抜)として京都府立医科大学に入学しました。在学時は、卒業後に見据えた一貫型カリキュラムのもと、医学の基礎を体系的に学ぶ中で、次第に自らの関心や適性が明確になっていったように感じます。机上の学びに加え、早期から臨床現場に触れる機会があったことも、将来像を描くうえで大きな助けとなりました。

卒業研修や義務年限のため地域医療に従事する間も、大学との繋がりは途切れることなく、学術活動や海外留学など幅広い経験を重ねることができました。こうした歩みを通じて研究への関心が深まり、現在は病理医として臨床に携わる傍ら、北部キャンパス地域医学コースの大学院生として研究にも取り組んでいます。

京都府立医科大学には、学生一人ひとりの可能性を引き出し、将来にわたる成長を支える基盤があります。基礎と臨床、大学と地域社会、そして人と人とを結ぶ歴史ある学びの場で、皆さんも多くの出会いや選択肢の中から、自分らしい道を切り拓いていけることを願っています。



医学部

看

護

学

科

School of Nursing

看護学科



看護学科の教育方針

看護学は実践の科学です。19世紀の半ば、F.ナイチンゲールは、ヨーロッパで中世から修道女達によって行われてきた看護を理論づけ、また看護の効果検証に統計学を用いるなど、科学的根拠に基づいた看護を実践することで、現代に繋がる近代看護学の礎を築きました。

本学の看護学科は、我が国における近代看護学教育の黎明期、1889年（明治22年）に開設された京都府医学校附属産婆教習所を淵源とし、130年を超えるこれまでの間に1万人以上の看護職を輩出するなど、ナイチンゲールの存命当時から続く数少ない看護師等養成機関の一つです。2002年（平成14年）には、京都府で初めての看護系大学（医学部看護学科）となり現在に至っています。令和6年度には大学教育質保証・評価センターの大学機関別認証評価を受審し、認証されています。

看護職者には生命や人間の尊厳を尊重できる豊かな人間性と創造性が必要です。また、専門的な知識や技術は元より、主体的な看護を実践するための科学的思考に基づく判断力、チーム医療を推進する上での協調性及び調整能力に加え、国際化が進む中、豊かな国際感覚とコミュニケーション能力も求められます。

長い歴史と伝統を通じて、今も息づく「Heart、Hand、Head」（心と技術と知識のバランスのとれた看護職者の育成）の精神が受け継がれています。

本学の看護学科では、この理念を基底に、全人的な理解をもとに看護を展開できる看護職者の育成に向け、人としての感性を磨き、視野を広げる「基礎・教養科目」、看護学の基礎を学ぶ「専門基礎科目」、専門性を培い、その能力をさらに高める「専門科目」を段階的に学修することで、看護専門職として、また、社会に貢献できる人材として必要となる総合的な能力の涵養を図っています。

QOL（クオリティ・オブ・ライフ）の概念が社会に浸透し、Cure（キュア）だけではなくCare（ケア）の重要性に注目が集まる中、Careの探究を学問領域とする看護学の重要性はますます高まっています。

将来に向けて看護を学び続ける意欲と姿勢を持ち、自立した看護職者となれるよう、私たちも学生の皆さんとともに努力を重ねてまいります。



看護学科長 吉岡 さおり
(成人看護学・がん看護学領域 教授)

カリキュラム概要

看護学科では、基礎・教養科目、専門基礎科目、専門科目を配置し、それぞれの講義・演習・実習を通じて、生命及び人間の尊厳を基盤に豊かな人間性と創造性を培い、看護専門職として総合的な能力を有し社会に貢献できる人材を育成するために、以下に示した6つの方針に従ってカリキュラムを組み立てています。

- 1 生命及び人間の尊厳の理解に基づく高い倫理観の形成、人間性及び環境への深い洞察力の育成
- 2 看護の専門職として必要な知識・技術・態度とあらゆる看護の場において主体的に看護が実践できる能力の育成
- 3 科学的思考に基づいた判断力、問題解決能力の育成
- 4 地域医療やライフステージなど様々な看護ニーズに応えることのできる、保健・医療・福祉との連携・調整を図る能力の育成
- 5 国際理解とコミュニケーション能力を基にして、グローバルな視野で健康問題を理解し、看護活動ができる能力の育成
- 6 社会の変化に対応して看護を発展させ、自ら課題を探索し、研究していくことができる基礎的能力の育成



第1・2学年

専門基礎科目と看護の基本を学びます。
基礎教養は看護舎と下鴨キャンパスで学びます。



生活援助論演習

第3学年

後期から看護学実習が本格的に始まります。



実習前のグループ学習

第4学年

これまでの学びを統合し、看護実践能力を高めるための看護の統合科目、卒業研究が配置されています。



看護の統合と実践



成人急性期看護援助論演習



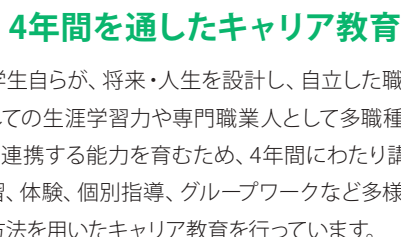
フィジカルアセスメント自己学習



卒業研究発表会



母性看護援助論演習

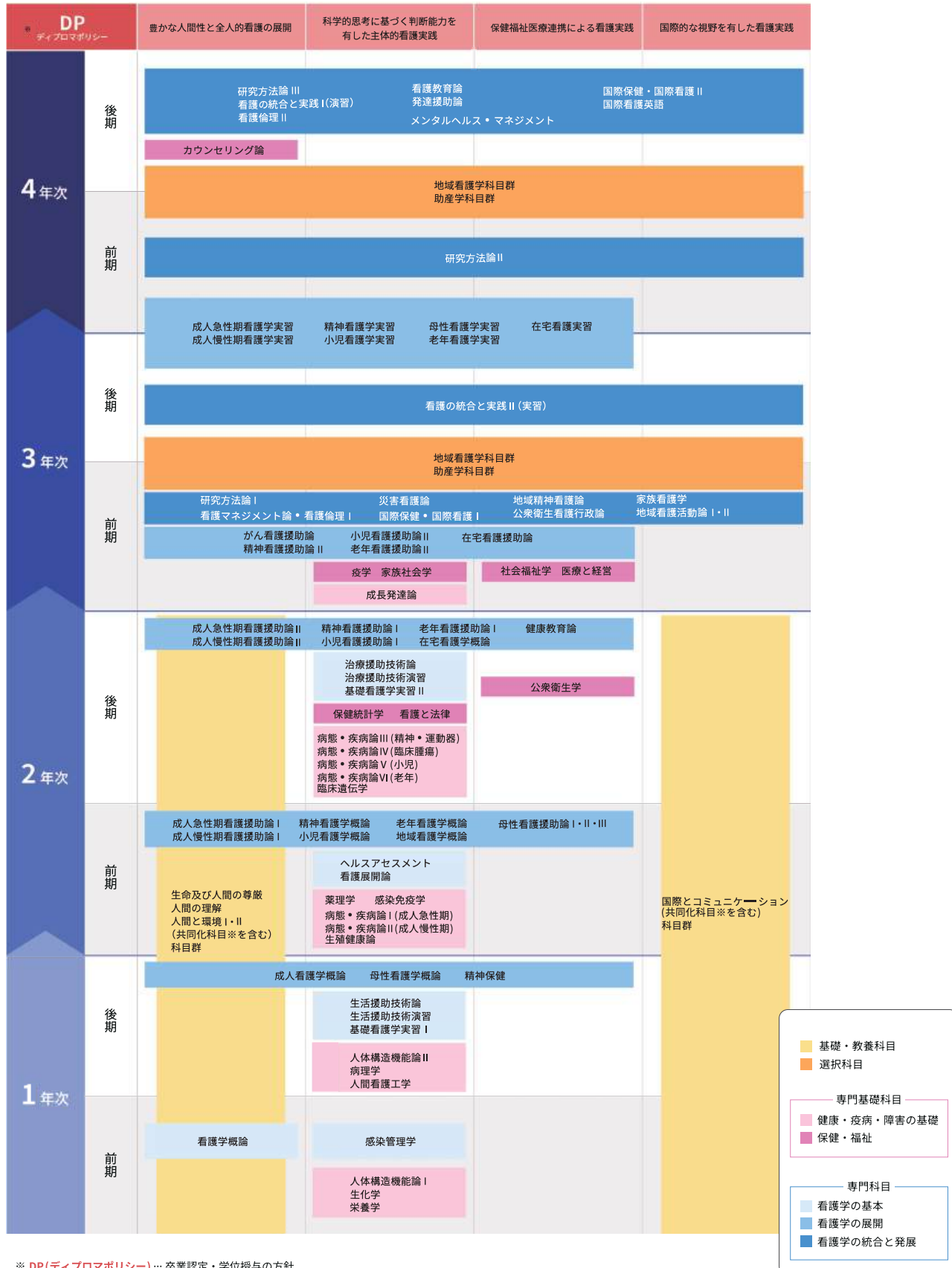


助産技術演習

4年間を通じたキャリア教育

学生自らが、将来・人生を設計し、自立した職業人としての生涯学習力や専門職業人として多職種と協働・連携する能力を育むため、4年間にわたり講義、演習、体験、個別指導、グループワークなど多様な学習方法を用いたキャリア教育を行っています。

カリキュラムマップ (令和7年度入学生)



※ DP(ディプロマポリシー) … 卒業認定・学位授与の方針

保健師・助産師コース紹介

看護師に加えて、保健師・助産師を目指す人は、地域看護学・助産学の選択科目を履修することができます。
履修者は、3年次に上がる段階で、希望者の中から選考により決定します。

保健師コース

地域看護学選択

【保健師とは】

保健師の働く場所は、都道府県や市区町村といった行政機関、企業や学校等があります。保健師は、地域で暮らす様々な年代や健康状態の人々を対象に、健康の維持・増進を支援する役割を担っています。その中でも最も多い行政保健師は、乳幼児健診や新生児訪問でのかかりを通して、子どもの発達支援や子育て支援など行うだけでなく、成人期からの健康づくり、高齢者の介護予防、障がい者の保健指導、感染症対策、保健計画の策定など、その活動範囲はとても幅広く多岐にわたります。

【本学の保健師教育】

本学の保健師養成課程は1951年(昭和26年)に始まり、現在に至るまで京都府内を中心に多くの先輩を輩出しています。本学では、地域で暮らす個人・家族・集団を「みる」、「つなぐ」そして「うごかす」力を大切に育てています。講義科目と現地実習を連動させた学習体系の中で、学生は保健師に求められる知識と実践能力を学びます。



助産師コース

助産学選択

【助産師とは】

助産師は、江戸時代から「お産の専門家」として職業化された、わが国では女性のみが取得可能な看護専門職です。少子化が進む今日においても、助産師に求められる役割は変わらず、女性と子どもの「産む力」「生まれてくる力」を信じ、医学的知識をもとに、女性の妊娠・出産、母乳育児や子育て期の支援を担っています。また、助産師は、独立して助産院を開業することができます。助産師は、女性と子どもの生涯の健康に寄り添い支援する専門職として、プレコンセプションケア、性教育、不妊相談、更年期の健康相談、在日外国人女性への支援などその活動は幅広く、社会から期待される職業です。

【本学の助産師教育】

1889年(明治22年)京都府医学校に附属産婆教習所が設置されてから135年の歴史があり、多くの卒業生が国内外で活躍しています。本学の看護学・助産学の講義や演習では、附属病院の医師・助産師、京都府内の開業助産師等から専門的な指導を受け、高度な周産期医療を支えるための適切な助産診断技術力の素地を養います。



卒業後について

地域の医療機関や施設において、看護師として従事するほか、保健師、助産師として活躍する道も！

卒業後の進路

卒業に必要な単位を取得することで、看護学士の学位、看護師国家試験の受験資格、また科目の選択により、保健師又は助産師国家試験の受験資格が得られます。

取得できる資格

- 看護師国家試験受験資格
- 保健師国家試験受験資格(地域看護学履修者)
- 助産師国家試験受験資格(助産学履修者)
- 受胎調節実地指導員申請資格(助産学履修者)
- 養護教諭二種免許

保健師免許取得後、所定科目(※)を修得した者は申請すれば取得可能。

※教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

看護師国家試験結果

	受験者数	合格者数	合格率(%)	全国平均合格率(%)
令和4年	85	85	100.0	91.3
令和5年	83	82	98.8	90.8
令和6年	85	82	96.5	87.8
令和7年	86	83	96.5	91.1

保健師国家試験結果

	受験者数	合格者数	合格率(%)	全国平均合格率(%)
令和4年	20	19	95.0	89.3
令和5年	19	19	100.0	93.7
令和6年	20	20	100.0	95.7
令和7年	19	19	100.0	94.0

助産師国家試験結果

	受験者数	合格者数	合格率(%)	全国平均合格率(%)
令和4年	8	8	100.0	99.4
令和5年	8	8	100.0	95.6
令和6年	8	8	100.0	98.8
令和7年	8	8	100.0	98.9

卒業後の活躍のフィールド

卒業後の主な進路



卒業後は、皆さんの将来に多様な活躍の場が開けます

在学生の声



看護学科 第1学年

田中 希実（滋賀県・滋賀県立膳所高等学校出身）

所属クラブ：軽音楽部

私たちが入学して約1ヶ月が経ちました。新しい環境でまだまだ慣れないことも多いですが、同じ志を持った仲間たちと、歴史のある学校で共に学べることをとてもうれしく思っています。

1回生の前期には、直接的に看護に関わる授業に加え、選択授業や三大学共同授業などを通して幅広い知識を身につけることができます。様々な分野の知識を持ち、視野を広げることで、多様な角度から患者さんについて考えることができるように一生懸命学習に取り組んでいます。

また、看護職のキャリアについての授業もあり、自身の将来について早くから具体的に知り、考えることができる環境があることもとても魅力的だと思います。素晴らしい看護職になるという共通の目標の中で、それぞれが自分にあった道を選択できるようにサポートをしていただけてありがたく思っています。

高い志を持った素敵な仲間たちと切磋琢磨しながら、専門職として、そしてひとりの人間として成長できる場所がここにはあります。受験生のみなさん、不安や辛いこともたくさんあると思いますが、周りの人への感謝を忘れず、自分を信じて最後まで頑張ってください。未来の看護を担うみなさんの入学を、心からお待ちしております。

看護学科 第4学年（保健師コース）

徳田 大貴（京都府・京都府立北稜高等学校出身）

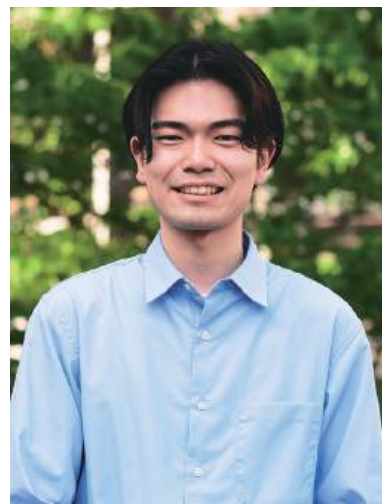
私は保健師コースに所属しており、第3学年から仲間とともに15人で地域看護学について学んでいます。

保健師コースでは講義形式だけでなくグループワークが多く、グループの仲間と活発に意見を出し合いながら勉学に励んでいます。少人数での活動であるため、仲間との信頼関係を築きやすく、互いに高め合える環境が整っている点が魅力です。

また地域看護学に関連する科目では、地域で暮らしている人々の健康状態やその環境といった地域特性を掴むために、地域に出向く地区踏査やweb情報を駆使して収集した統計情報のアセスメントを行うなど、実際に見て触れて学びを深める機会が多くあります。その他にも、演習では新生児の家庭訪問に関するロールプレイや、成人や母子、高齢者を対象とした健康教育を企画し、その後の実習で実際に地域の人に実施したりなど、看護コースにはない様々な経験ができます。

このような経験の中で、悩むことや迷ったりすることは多くありますが、先生方との距離が近く、何かあった際にはすぐに質問や相談することができるため、安心して演習や実習に取り組むことができ、充実した学生生活を送ることができています。

地域で暮らす多くの人と関わり、その方たちの健康の直接的な手助けをできることが保健師の大きな魅力です。皆さんも本学で素敵な保健師を目指してみませんか。



看護学科 第4学年（助産師コース）

佐野 若菜（京都府・京都府立南陽高等学校出身）

私は助産師コースを選択しています。第3学年から本格的に助産学の授業が始まりました。

助産学履修生は8人という少人数であるため、意見交換を盛んに行ったり、先生に質問したりしやすい環境が整っています。授業では、講義だけではなく、紙上事例を通してお母さんや赤ちゃんのアセスメントをしたり、学生同士で助産師役とお母さん役に分かれて保健指導のロールプレイを行ったり、モデル人形で分娩介助の練習をしたりなど、臨床の場面を想定した演習がたくさんあります。助産院に伺って、施設内の見学をし、助産院でのお産のお話を聴かせていただく機会もありました。

看護学の講義、実習に加えて助産学の講義や実習を受けるため大変ではありますが、先生方のサポートや、同じ目標に向かって頑張る仲間のおかげで、充実した日々を送ることができています。

助産師は、赤ちゃんを取り上げることができる素敵な職業ですが、それだけではなく、妊娠・出産・産後のケアや、女性の健康相談、地域での活動など、活躍の幅が広く、女性の一生に寄り添うことができる仕事です。皆さんも本学で素敵な助産師を目指してみませんか。



卒業生の声



母校は看護を温かく見守り育てる母のような存在

京都府立医科大学附属病院 副病院長・看護部長

藤本 早和子 京都府立医科大学附属看護専門学校 平成2年度卒業
京都府立医科大学大学院保健看護学研究科 平成28年度修了

母校である京都府立医科大学附属看護専門学校を卒業後、附属病院に就職して現在に至ります。平成16年にがん性疼痛看護認定看護師を取得し、平成25年には緩和ケア病棟の看護師長として緩和ケアに携わり、平成27年から本学大学院保健看護学研究科において、臨床での疑問を学術的な側面から可視化する方法論を学ぶことができました。

平成30年4月より副病院長兼看護部長を拝命し、京都府民の皆様へ質の高い看護が提供できるよう尽力しています。母校は、様々な形で自分の看護を温かく見守り、育ててくれる「母」のような存在です。皆さんも、この大学で真の看護を育てていただきたいと思います。

可能性は無限大

京都府中丹西保健所保健課 保健師

川口 聖恵 京都府立医科大学医学部看護学科 令和4年度卒業

大学生生活の大半はコロナ禍でしたが、実習できる環境を整えてくださったおかげで、貴重な経験を積むことができました。弓道部、混声合唱団でも良き先輩、後輩、仲間に出会えました。令和5年度に京都府に入庁し、現在は福知山市にある中丹西保健所で勤務しています。保健所では、ALS等の難病患者さんの支援に携わっています。患者さんの病状進行に伴う意思決定支援や、残存機能を活かした意思伝達装置の検討、市と協働し自力避難が困難な方の災害時個別避難計画の策定などを行っています。

仕事をする上で常に意識しているのは、大学の先生からの言葉です。『足を運びなさい。そして、自分の目で見なさい』。多くの患者さんと向き合うたびに、この言葉の大切さを実感します。今後も、目の前にいる患者さんの思いや、この地域のニーズを捉え、患者さんが過ごしやすい地域に向けて全力を尽くしたいと思っています。

今はもう、コロナ禍ではありません。自分で自分に制限をかけずに、可能性を信じて全力で前に進んでください。大学生生活が充実したものとなるよう心から願っています。



患者さんの人生に寄り添い、自分も成長できる場所

京都府立医科大学附属病院 看護師

森原 由衣 京都府立医科大学医学部看護学科 令和元年度卒業

京都府立医科大学を卒業後、附属病院に勤務して5年目となります。

4年間の内科外科の一般病棟で様々な経験を積ませていただき、患者さんやご家族との日々の関わりから、自身の看護観を育んでまいりました。患者さん一人ひとりに寄り添い、チーム医療の一員として働く日々はとても充実しています。

新人指導や看護研究にも取り組み、仲間と共に成長することができました。今年度は、ICUに配属となり、より専門性の高い集中治療を提供する現場で学びを深めております。大学病院は常に最先端の知識や技術に触れられる場であり、自身の成長を実感できる環境です。また大学時代に所属していた軟式テニス部で出会った同期や先輩、後輩との縦と横との繋がりは、働いている今でも大きな支えで、本学ならではの魅力だと思います。京都府立医科大学は、あなたの未来を支えてくれる場所です。将来、皆様と一緒に働ける日を楽しみにしております。

様々な可能性が広がる場

京都府立医科大学医学部看護学科成人看護学 助教

大槻 佳代子 京都府立医科大学大学院保健看護学研究科博士前期課程 令和6年度修了

2025年3月に保健看護学研究科博士前期課程を修了し、同年4月より教員の道に進み始めました。看護師となり将来的に進学を考えながら、長く臨床に携わらせていただきました。日々患者さん・ご家族と向き合い、看護を通じて生じた疑問をさらに掘り下げ、論理的思考で分析することができればと考え、大学院進学を決意しました。

大学院では、様々な専門分野で活躍する仲間に出会い、多角的視点で物事を捉えることや医療者として重要な倫理観などについて学ぶことができました。また、先生方の温かく丁寧な指導から教員への興味・関心へとつながり自身の教員としての可能性を拡げることができました。これからは、これまでの経験を活かし、教育や研究を通して社会に少しでも貢献していくことができたいと思っています。みなさんも看護の世界から自身の可能性を拡げてみませんか。



研究的思考を礎に、がん看護の質を高める

京都済生会病院 外来 特任係長 がん看護専門看護師

山本 正彦 京都府立医科大学大学院保健看護学研究科博士前期課程
がん看護専門看護師コース 令和元年度修了

がん看護専門看護師コースでは、専門知識と研究能力に加え、同じ志の仲間との刺激が専門性や倫理観を深める契機になりました。多くの現役専門看護師からの直接指導は、自身の資質と真摯に向き合う贅沢な学びの環境でした。この学びと経験は、臨床で深く考察し、質の高いがん看護を提供する専門看護師としての礎となっています。

現在、外来で患者さんご家族がその人らしい生活を送れるよう、多職種と連携しながらサポートしています。また、適切な医療とケアを提供するために、院内教育やシステム調整にも力を注いでいます。臨床で出会う一つひとつの現象を研究的思考で捉え、本質を見抜き、組織のアウトカムを見据えた介入ができるよう努めています。

皆さんも本学で、専門看護師としての資質を磨き、育まれることを願っております。

医学研究科

医科学専攻(修士課程) 統合医科学専攻(博士課程)

医科学専攻(修士課程) 定員：10名 修業年限：2年 学位：修士(医科学)

学びの意欲にあふれる他学部の卒業生を対象に医科学の基礎的教育を体系的に提供

修士課程は、理学、薬学、工学などの医学以外の大学の学部を卒業後、医科学に高い志向性を持ち、大学院においてさらに研究を深めたいと願う学生に対して、医科学の基礎的教育を体系的に提供し、個々の特性を生かして医学研究の学際的展開を図りうる研究者、技術者、ヘルスサイエンスの専門職として質の高い人材を育成することを目的としています。そして専攻や分野の別を超えて、研究マインドと優れた研究能力を備えた医療系人材の養成を目指しています。

修士課程には、がん領域と希少難病領域を含むゲノム医療全般に対応可能な認定遺伝カウンセラー®を養成するため、「遺伝カウンセリングコース」を設置しています。

医学隣接領域の背景をもつ学生が、本修士課程を通じて、出身領域と医科学を融合させ、これからの医科学分野をリードし得る優れた研究者、技術者や、ヘルスサイエンス分野の高度な専門職として羽ばたいてほしいと期待しています。

統合医科学専攻(博士課程) 定員：70名 修業年限：4年 学位：博士(医学)

世界をリードする創造的医学人材の育成

博士課程では、グローバルに発信する先端医学研究とローカルに実践する高度先端医療を実現できる人材育成を目指しています。地域に根ざしそこに暮らす人々に寄り添う医学・医療を実践してきた本学には、地域ネットワークやレジストリデータなどの特色あるリソースの基盤があります。また、独創性の高い世界レベルの基礎研究を発信してきた歴史もあり、基礎的分野から臨床医学まで、高度かつ融合的な医科学研究の指導を行います。

専門特化された履修内容及び充実の研究指導体制により、国内外の研究機関で活躍する優れた研究者を輩出

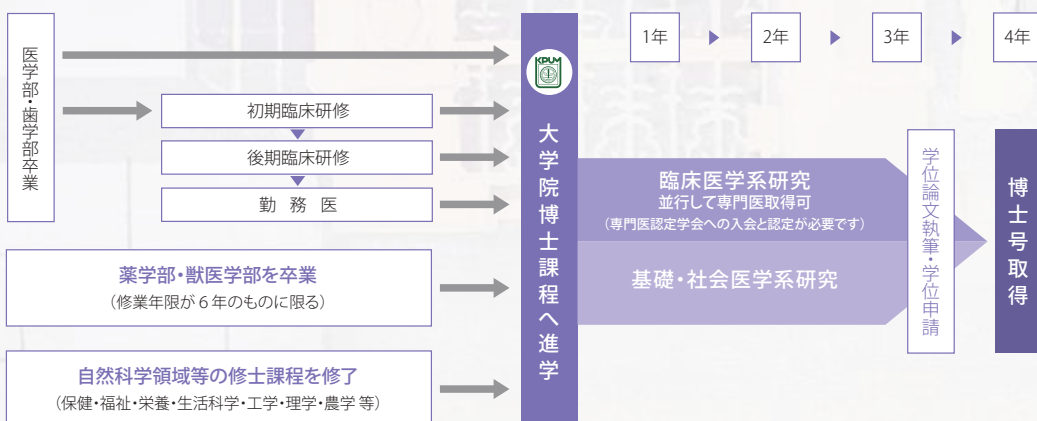
博士課程には「総合コース」、「がんプロフェッショナル養成専門コース」、「法医臨床医・法歯科医・法医専門医養成コース」、「北部キャンパス地域医学コース」があります。総合コースでは専門領域として、地域医療・社会医学、発達・成育医科学、先端医療・ゲノム医学、生体情報・機能形態学、病態解析・制御医学、機能制御・再生医学の6分野が置かれています。

がんプロフェッショナル養成専門コースでは質の高いがん専門医の養成を目的として、がんに特化した基幹科目を履修し、がん診療の専門的教育を受けながら密度の高い大学院教育を受けることができる環境を提供しています。

法医臨床医・法歯科医・法医専門医養成コースは、本学、滋賀医科大学、大阪医科薬科大学の3大学が共同で法医学の知見・能力を臨床医学等に活用できる医師、歯科医師を養成することを目的としています。

北部キャンパス地域医学コースは、北部キャンパスを拠点に地域卒卒業生等が京都府中丹地域以北の病院に勤務しながら大学院に入学し、複合的な医学的・社会的課題の先の未来を切り拓く、トランスファラブルスキルを備えた越境的リーダー人材を育成することを目的としています。

大学院修了後は、大学教員や研究機関などで、また保健行政機関や関連病院などで、専門的知識を生かした医学研究者・高度医療人として活躍する人材が多数います。



保健看護学研究科

保健看護学専攻(博士前期課程) 保健看護学専攻(博士後期課程)

現代のヘルスケアニーズに即した研究と実践

医療の飛躍的進歩や多様化、急速に進展する高齢化に伴い、高度医療の現場や地域社会において、質の高い看護実践能力・研究力を備えた看護専門職者が求められています。

大学院保健看護学研究科は、京都府内で初めての看護系大学院として、2007年(平成19年)に開設されました。平成30年には博士後期課程を設置し、現代のヘルスケアニーズに即し、多様な分野でリーダーシップを発揮しながら活躍できる高度専門職業人および学際的な保健看護学の教育・研究者を育成します。

保健看護学専攻(博士前期課程) 定員：8名 修業年限：2年 学位：修士(保健看護学)

博士前期課程(修士課程)では12の研究領域、2つの専門看護師コースを設置し、専門性の高い高度実践家、教育・研究者として必要とされる能力を育成します。

専門看護師コース

専門看護師コース修了者は、日本看護協会の認定審査を経て、専門看護師資格を得ることができます。本学には以下2つの専門看護師コースを設置しています。

● がん看護専門看護師コース

がん患者の全人的な苦痛を理解し、QOLの視点に立った水準の高い看護実践を探究します。がん薬物療法看護と緩和ケアをサブスペシャリティとし、疼痛緩和、終末期医療の分野にも強みを持つ人材、患者中心のケアの実践、他職種・地域医療との連携を先駆的に進める人材を育成します。令和6年時点で、14名の修了生全員ががん看護専門看護師として活躍しています。

● 精神看護専門看護師コース

2024年4月に新たに精神看護専門看護師コースを開設しました。精神看護専門看護師は、精神的課題を抱える様々な対象に対して、高度な専門知識と技術を駆使し、看護チームや他職種と連携しながら、ケアを実践する高度実践看護師として位置づけられています。本学は、医科大学の特徴を生かして最新の精神科治療を学べるとともに、リエゾン精神看護と精神科看護を学ぶカリキュラムを整備しています。

保健看護学専攻(博士後期課程) 定員：3名 修業年限：3年 学位：博士(保健看護学)

博士後期課程は、基盤実践保健看護学と広域実践保健看護学の2つの研究分野から構成されています。看護実践に活用可能な理論構築やシステム開発を目指し、科学的な思考に基づいた高度な研究・教育を推進します。保健看護学の研究推進に必要な高い倫理観、高度な研究能力、教育能力を備えた専門職業人および学際的展開を図ることができる保健看護学の教育・研究者を育成します。

博士後期課程
博士課程

臨床現場に応用可能な実践的で最先端の保健看護学の学問構築にむけ、学際的且つ最新の科学的知識を探究する。保健看護学の基盤となる看護学理論、看護倫理学、看護教育の理論や教育方法、臨床現場のマネジメントなどの理論を学修する。

基盤実践保健看護学分野

社会の課題を捉えて、地域包括ケアにおける新たな課題を予防的視点から検討を加え、実践に向けた介入支援方法を探究する。地域における諸問題の解決や複雑で多様な健康問題を有する個人、家族および集団の生涯にわたるヘルスケアニーズに対応した新たな保健サービスの提供、地域包括ケアシステム構築に向けた看護理論、組織づくりやマネジメント、実践の方法論を学修する。

広域実践保健看護学分野

学生の研究の方向性により、後期課程ではいずれかの分野を選択可能

博士前期課程
修士課程

臨床健康科学
基礎看護学
看護倫理・管理学
成人看護学
がん看護学
小児看護学
母性看護学
助産学
老年・在宅看護学
精神看護学
地域看護学
女性生涯保健学
小児発達保健学

研究者養成

がん看護
精神看護

専門看護師養成

府立医大の1年



4

- 入学式
- 新入生オリエンテーション
- 学生定期健康診断
- 東京慈恵会医科大学との定期交流戦

5

- 追悼法要(納骨式)
- 社会医学実習(医4)

6

- 早期体験実習Ⅰ(医1)
- 大学院学位授与式
- 研究配属(医4)
- 定期試験(医4)

7

- 定期試験(医1、3・看1～3)

8

- 夏季休業
- 夏のオープンキャンパス
- 西日本医科学生総合体育大会
- 北部地域病院での早期夏季研修(医1～3推薦入学生対象)

9

- 基礎看護実習Ⅰ(看1)
- 地域医療実習(医5・看3)
- CBT(医4)
- 総合診断学実習(医4)
- 前期試験(医2)

クラブ活動



体育部【全22部】

本学はクラブ活動が盛んで、多くの学生がクラブに所属しています。学生が最も力を入れている大会に西日本の44医学部が参加する「西日本医科学生総合体育大会」があります。また年に一度、東京慈恵会医科大学との定期交流戦が行われています。

- ワンダーフォーゲル部
- 男子バスケットボール部
- バドミントン部
- 男子バレーボール部
- 卓球部
- 弓道部
- ラグビー部
- 準硬式野球部
- 男子ハンドボール部
- 水泳部
- 自転車競技部
- サッカー部
- 女子バスケットボール部
- 剣道部
- 硬式庭球部
- ヨット部
- 陸上競技部
- 軟式庭球部
- 柔道部
- 女子ハンドボール部
- フットサル部
- ゴルフ部





10

- 解剖体秋季追悼式
- 臨床実習スタート (看3)
- 臨床実習前OSCE (医4)
- 進級試験 & 卒業試験 (医5,6)

11

- 創立記念日
- トリアス祭
- 臨床実習後OSCE (医6)
- 白衣授与式 (医4)
- 早期体験実習 II (医1)
- 後期試験 (医1)
- 臨床実習スタート (医5)

12

- 冬季休業
- 大学院学位授与式
- 臨床実習スタート (医4)
- 卒業研究発表 (看4)
- 後期試験 (医3)

1

- 後期試験 (医2、看2)
- 統合授業 (医1、3)

2

- 医師、看護師等国家試験
- 後期試験 (看1)
- 基礎看護実習 II (看2)
- 基礎医学スタート (医1)

3

- 卒業式・学位授与式
- 春季休業

文化部【全14部】

本学の文化部は様々な分野にわたり大学と連携した活動を展開しています。他の大学との交流も盛んであり、鴨川のほitoriという恵まれた環境の下で各々の学生が豊かな大学生活を謳歌しています。

- 写真部
- 音楽部交響楽団
- 東洋医学研究会
- 医道部 (かるがも)
- AIメディカル研究会
- 軽音楽部
- ESS
- 総合芸術部
- 美術部
- 数学研究部
- 茶道部
- 混声合唱団たちばな
- 囲碁・将棋部
- 室内楽部



橘 賞

本学学生の課外活動が積極的に行われることを奨励し、感性豊かな医療人の育成に資することを目的として、本学医学部に在籍する学生で他の模範となる特に優れた課外活動を行った者又は団体には橘賞を授与しています。



学生の1日



医学科 第2学年

柳原 愛子 (愛知県・愛知高等学校出身)

所属クラブ：茶道部、東洋医学研究会、ワンダーフォーゲル部、トリアス祭実行委員

	月	火	水	木	金	土
1	生体構造	統合生理	形態科学	生体構造	細胞生理	
2	生体構造	統合生理	生体構造	分子生化学	細胞生理	
3		分子生化学			ゲノム医科学	部活やアルバイト、友達と遊びに行ったりなど
4	解剖実習	分子生化学	解剖実習	解剖実習	教養英語	
5						
放課後	友達とご飯を食べに行くことがあります	部活やアルバイト			部活やアルバイト	

一般教養を終え、2回生になるといよいよ医学教育が始まります。

- 7:30 **起床** : カーテンを少し開けておくと目覚めがいいです。
- 7:35 **準備** : 私は洗濯機を毎日回してるので同じ服になりがちです。
- 7:50 **朝食** : 生協経由で食堂付き学生会館に住んでいます。他大学の人や料理してくれる人とも仲がいいので話も楽しめます。
- 8:20 **大学へ** : 自宅の目の前にバス停があって便利です。バス定期を持っています。
- 8:40 **到着** : みんな仲が良く、到着してからいろいろお喋りしてます。
- 8:50 **1限目の始まり**
- 12:00 **午前の授業終了** : 生協やコンビニ、午前の授業が早く終わったときは周辺のお店へ、友達との楽しい時間です。
- 12:50 **午後の授業** : 実習時は私の場合は18時までかかることが多いです。
- 放課後** : 部活やアルバイト、友達と遊びに行ったり、日によってまちまちです。
- 21:00 **帰宅、夕食・洗濯・お風呂** : 夕食も寮の食堂で摂ります。友達と会えたら一緒に喋りながら食べます。
- 0:00-1:00 **就寝** : 予習をしたり、ネットサーフィンをしたり、8時間は寝たいと毎日思いついていけないこともしばしば……

毎日大学病院での臨床実習を行っています。

- 6:30 **起床** : 頭が起動するのに時間がかかるタイプなので、早起きしてゆっくり準備。アラームは派手な音にするのがポイント。朝ごはんは必須、TKG(卵かけご飯)は作りやすいのでおすすめ。果たしてこれを「作る」というのか不明ですが。
- 8:00 **通学・登校** : スクラブや白衣に着替え、「医療従事者」に変身。背筋を伸ばして病院内に歩き出します!
- 8:30 **実習** : 予診や診察、処置の見学をさせていただいたり、外科系の科では手術室に入ったりもします。
- 12:00 **昼休み** : 実習の班員と食堂で楽しく話しながら過ごします。自分で栄養を考え(ているつもり)ながらメニューを選びます。おすすめの小鉢は「巣ごもりオクラ」。ひんやりしていて美味しい!
- 13:00 **実習** : 座学とは一味違い、担当患者さんの病態・疾患について詳しく勉強し、新たな知識をシャワーのように浴びながらブラッシュアップしていきます。
- 17:00 **部活・アルバイト等** : 部活では学科学年問わず全員で練習。休日に遊ぶためにもアルバイトは大切! 教育・飲食など、医学生は案外様々なジャンルのアルバイトをします。図書館でレポート・発表のための文献検索やその準備をすることも。
- 21:00 **夕食・帰宅** : 自宅で食えることが多いですが、部活仲間と近くのお店に行くことも。他愛もない話から相談事まで語り合える好きな時間です。
- 22:00 **翌日の準備** : 実習で学んだことをその日のうちに復習するように心がけています(疲れ果てて何もできないことも多々あり)。入浴後は基本オフモード……
- 24:00 **就寝** : 睡眠不足は実習の最大の敵。できるだけ長く寝ます。それでも眠いときは昼休みに大学で仮眠を取ることも(笑)。



医学科 第5学年

奥山 拓起 (京都府・洛星高等学校出身)

所属クラブ：バドミントン部

	月	火	水	木	金	土
1						
2	病院実習	病院実習	病院実習	病院実習	病院実習	アルバイト友人と会う買物に行く趣味の時間
3						部活に行く家でゴロゴロ
4						たまに勉強など様々な過ごし方
放課後	部活(バドミントン)	自宅でアルバイト(通信添削)	部活(バドミントン)	アルバイト(家庭教師)		



看護学科 第2学年
中村 萌々 (奈良県・奈良学園登美ヶ丘高等学校出身)

	月	火	水	木	金	土
1	地域看護学概論	ヘルスアセスメント	成人急性看護援助論	感染免疫学	老年看護学概論	
2	病態・疾病論Ⅱ	病態・疾病論Ⅱ	母性看護援助論Ⅰ	小児看護学概論	成人急性看護援助論	
3	精神看護学概論		薬理学		治療援助論	
4	病態・疾病論Ⅰ	成人慢性看護援助論	母性看護援助論Ⅱ	成人慢性看護援助論	治療援助論	
5	生殖健康論					
放課後	課題・予習	課外活動	課外活動	課題・予習	課外活動	

2 年生となり勉強や課題に追われる日々ですが、アルバイトや中高生向けの医療系プログラムの運営などとの両立もしながら充実した大学生活を送っています！現在は保健師課程への進学を目標に日々勉強に励んでいます。

- 6:30 起床・準備** : 1 分でも長く寝ていたいので、1 年生の時よりはやく支度ができるようになりました。
- 7:00 通学** : 毎日満員電車で揺られながら 1 時間強かけて通学しています。
- 8:50 講義** : 病院実習に向け、1 年生の時に比べて専門的な内容を学んでいます。
- 12:00 昼食** : 休み時間が 50 分なので教室でお弁当を食べていますが、空きコマがあると河原町のご飯屋さんに行くこともあります。
- 12:50 講義** : 演習も 2 年生になるとより専門的な手技を学びます。医療器具に触れるたびに気が引き締まります。
- 18:00 自習・課外活動** : 課題がとても多いので、毎日少しずつ進めています。今年からラーニングコモンズが開館され、21 時まで開いており、飲食も自由なので、毎日活用しています。
- 24:00 就寝** : 次の日の用意をしてから寝ます。朝がとて弱いのでアラームを何個もかけて、音量も最大にしています。

3 年生後期から 4 年生前期にかけて、領域別実習に取り組みます。実習の仲間とともに様々な患者さんと関わる中で看護について改めて考えることができ、とても面白いと感じています。

- 7:00 起床・身支度** : 前日に実習記録など持ち物をしっかり準備しておきます。登校してから実習着に着替えて集合します。
- 8:30-12:00 実習** : グループごとに領域別の実習を回っていきます。附属病院だけでなく、他病院や学外施設など地域に密着した実習も行います。
- 12:00-13:00 昼食** : 教室で実習グループのメンバーと昼食をとります。午後から行うケアの予習なども行います。
- 13:00-15:00 実習** : 指導看護師さんとケアを行ったり、患者さんとコミュニケーションをとったりします。自身で立てた看護目標や計画に沿って実習を進め、指導看護師さんからの助言や先生方からの指導をいただきます。
- 15:00-17:00 実習記録作成** : 1 日の病棟実習が終わったら、学内でまとめやその日の記録作成を行います。看護目標や看護計画について疑問があれば、先生に相談に乗ってもらうこともできます。
- 17:00-20:00 部活・実習記録作成** : 気分転換のため、週 1 回の部活動で歌ったり後輩や医学科の先輩とお喋りしたりできることが、実習中の楽しみの 1 つです。部活がない日は早めに帰宅して記録や看護計画作成の続きを行うこともあります。
- 20:00-23:00 夕食・入浴・自由時間** : 実習中は普段よりも余暇時間が少なくなるので、意識して好きな音楽や動画に触れ、リラックスする時間を設けるようにしています。
- 23:00 翌日の準備** : 朝の支度を減らせるように翌日の予定を確認しながら持ち物を準備します。
- 23:30 就寝** : 実習中は睡眠時間の確保が大切なので、余裕をもって就寝します。



看護学科 第4学年
糸川 夏実 (京都府・京都府立洛北高等学校出身)

所属クラブ：混声合唱団たちばな

	月	火	水	木	金	土
1						
2						
3	実習	実習	実習	実習	実習	実習記録/ 予習・復習 /アルバイト/ 余暇活動
4						
5						
放課後	実習記録/ 予習・復習		実習記録/ 予習・復習/ 部活		実習記録/ 予習・復習	

地域に学ぶ

「世界トップレベルの医学を地域へ」の理念に基づき、地域医療に学ぶプログラムを組んでいます。医学科5年生と看護学科3年生は、「地域医療実習」として京都府北部地域での現地臨床実習を行います。本学北部医療センターをはじめ複数の北部基幹病院に分かれて派遣され、地域毎の特色に対応した医療の在り方や地域コミュニティについて共同学習を行います。「キャリア形成卒前支援プランに基づく夏季実習」では、医学科1～3年生の学生が夏季休業中に、北部地域の医療機関を見学研修します。

これらのプログラムを通じて、医療と地域とのつながりの重要性を学びます。

地域医療実習 — 医学・看護学の共同実習 —

地域医療実習に参加して

医学科 第6学年

杉本 亜梨朱（京都府・京都文教高等学校出身）

所属クラブ：ワンダーフォーゲル部、弓道部、茶道部、写真部

2024年8月、私は地域医療実習として丹後医療圏の中核を担う京都府立医科大学附属北部医療センターに行きました。与謝で数日間生活しながら実習に参加する中で、医療従事者の人手不足や医療・介護を必要とする高齢者の多さといった課題に加え、小規模な地域だからこそ、患者さんと医療従事者との距離が非常に近く、医療・福祉・保健の分野が密接に連携しながら住民を支えていることを学びました。

実習では、多職種が連携し、地域住民を交えた話し合いが行われていることを実際に見聞きし、チーム医療の重要性を実感しました。また、看護学科の学生とともに実習に参加したことで、看護の視点からも医療を学ぶ機会を得ることができ、非常に有意義な実習となりました。



看護学科 第4学年

久下 真琴（京都府・京都橘高等学校出身）

私は地域医療実習で京丹後市立弥栄病院を訪れました。高齢者が多く暮らすこの地域では、医療のニーズが高い一方で人手不足といった課題もありますが、病院や施設などが垣根を越えて支え合い、誰もが顔なじみという温かな関係の中で、判断に迷ってもいつでも相談し合える環境が整えられ、地域全体で住民を支えていることを強く実感しました。また地域の施設は、医療や介護の場としてだけでなく、独居や高齢では得にくい季節の移ろいを感じイベントに参加できる場となっており、住民同士の交流できる場所として、みなさんの生きがいや元気の源になっていることも学びました。

弥栄地域のあたたかい空気に包まれながら、住民の方々と直接触れ合うことで、普段の実習ではなかなか味わえない地域医療の温かさと大切さを肌で感じることができ、私にとって非常に有意義で忘れがたい体験となりました。



キャリア形成卒前支援プランに基づく早期夏季研修

夏季研修に参加して

医学科 第4学年

中村 まなみ（京都府・京都市立堀川高等学校出身）

私は、3回生の夏休みに早期夏季研修に参加しました。

3回生は実習がほとんどなく、毎日座って授業を受けて、定期テストやCBTのために机に向かって勉強する日々です。

そんな中、実際に京都府の北部にある医療機関をいくつか訪問して先生方にお話を聞いたり病院内を案内していただいたりしたことで良い刺激になり、将来そこで働くイメージが湧きました。正直、今まで北部で働くことに対してマイナスなイメージがありましたが、今回の研修で巡った病院はどれも立派で、心の底から北部で働きたい!と思えました。

地域枠で入学した学生として、将来北部地域に貢献できるよう残りの学生生活も勉強や実習に一生懸命取り組もうと思います。



参加者一同、北部医療センターにて

国際交流

本学では、現在の多様化・融合化・国際化する教育研究の広がりを踏まえ、海外の大学等との連携・学術交流を積極的に推進しており、下記の8つの大学へ医学生を派遣し臨床実習を行っています。また、看護学生はオーストラリア、タイ、アメリカで海外研修を行います。

2024年に策定した「国際化推進プラン2024」の下、医学生や看護学生の実習先・研修先の拡大に取り組んでいます。



【医学科海外臨床実習派遣大学】

- ① オクラホマ大学
- ② エディンバラ大学
- ③ リーズ大学
- ④ マーストリヒト大学
- ⑤ チュロンコン大学
- ⑥ シンガポール国立大学
- ⑦ 翰林(ハルビン)大学
- ⑧ ロス・アンデス大学

【看護学科海外研修】

- ① ゴールドコースト
- ② ランバーン(タイ)
- ③ シアトル

(2025年4月現在)

学生団体KiSA

KiSAから始まる国際交流

代表 医学科 第4学年 平居 憲人

KiSA (KPUM International Student Association) は2019年に外国人留学生との交流促進を目指して設立された、本学国際交流センター公認の学生団体です。

KiSAでは大学院にきている長期留学生に加えて、臨床実習で訪れてくる海外提携校からの短期留学生とも交流の機会を設けています。毎月の交流会や年数回開催するワークショップでは、「喫茶(KiSA)」店で話すがごとく気軽な気持ちで交流し、各国との生活・文化・医療などの共通点や相違点に気付く機会を設けています。また、留学生と小旅行に行ったり、海外大学の主催するイベントに参加したり、という事も行っています。

KiSAは国際的な視野を持って医学・医療を担っていこうという皆さんをお待ちしています。



留学だより・海外研修だより

オクラホマ大学での留学

医学科 第6学年 山内 将太

オクラホマ大学での留学は、将来小児心臓外科医を目指す私にとって貴重な経験でした。1ヶ月の間、小児内分泌科、血液内科、循環器科、小児心臓外科を見学しました。特に小児心臓外科では、私が質問をする度に快く対応してくださり、日本と異なる治療法やアプローチに触れることもできて多くのことを吸収できました。また、現地の先生方はとても教育熱心で、昼食の時間に学生の症例発表の時間があったり、講義やディスカッションがありとても充実していました。

医療以外の面でも、現地の方々とはフレンドリーで地元の人々ともたくさん交流でき、医学だけでなく、異文化理解を深める上でも貴重な時間となりました。



オーストラリア看護研修に参加して

看護学科 第3学年 上野 美咲

私は2024年9月に、10日間にわたる「オーストラリア看護研修」に参加しました。現地では、グリフィス大学やクリニックの見学に加えて、大学教員、現地の日本人看護師によるセミナーを受講しました。その中でも、現地の大学では演習や実習をメインに行っていることを知り、助産学についての日本との違いや水中出産についても学び、新たな知識や視点を取り入れることができました。また、10日間の中で、常に現地の方の人の温かさを肌で感じました。今回の研修を通して、日本を超えた広い視野で医療を見つめ直し、改めてこれからの自分自身の在り方や授業、実習に対する気持ちを高めるきっかけとなりました。



教育スタッフ

京都府立医科大学の教育スタッフは、いずれも様々な分野の最先端で活躍してきたスペシャリストです。

医師や看護職者を目指して学ぶ学生たちが、次世代の医学や医療現場で活躍できるよう、教員一人ひとりが持つ生きた知識やノウハウを活かした、高度で専門的な教育を実践しています。

学長
夜久 均



附属病院長
佐和 貞治



副学長(総務担当)
＜働き方改革・情報関係＞
兼総合情報センター長
浮村 理



副学長(教育担当)
＜入試改革・大学認証＞
橋本 直哉



副学長(地域医療担当)
＜大学整備・地域医療＞
の場 聖明



副学長(研究担当)
＜未来人材育成＞
八木田 和弘



医学科

●教養教育

人文・社会科学教室

教授 瀬戸山晃一
【医学基盤教育部長】

准教授 杉岡 良彦

第一外国語教室

教授 木塚 雅貴

数学教室

講師 吉井 健悟

物理学教室

教授 高西 陽一

准教授 川野 輝彦

化学教室

教授 大庭 誠

准教授 武元 宏泰

生物学教室

教授 吉澤 達也

准教授 山田 大祐

●基礎・社会医学

解剖学教室

生体構造科学部門

准教授 松田 賢一

講師 山田 俊児

生体機能形態科学部門

教授 八代 健太

講師 小林 大介

生理学教室

細胞生理学部門

教授 樽野 陽幸

統合生理学部門

教授 八木田和弘

【副学長】

講師 土谷 佳樹

講師 小池 宣也

講師 梅村 康浩

分子医科学教室

分子生化学部門

教授 中田慎一郎

講師 吉田 達士

ゲノム医科学部門

教授 田代 啓

准教授 中野 正和

病理学教室

細胞分子機能病理学部門

教授 原田 義規

分子病態病理学部門

教授 宮川 文

講師 藤本 崇宏

感染病態学（微生物・医動物）教室

教授 中屋 隆明

【研究部長】

准教授 廣瀬 亮平

講師 西岡 敬介

免疫学教室

教授 松田 修

准教授 岸田 綱郎

講師 新屋 政春

薬理学教室

教授 榎村 敦詩

保健・予防医学教室

予防医学部門

教授 武藤 倫弘

【学生部長】

准教授 宮本 真吾

講師 渡邊 元樹

公衆保健科学部門

教授 高嶋 直敬

講師 小原久未子

法医学教室

教授 池谷 博

【附属図書館長】

准教授 新谷 香

生物統計学教室

教授 手良向 聡

講師 中田美津子

医療フロンティア展開学

教授 加藤 則人

【医療センター所長・北部キャンパス長】

准教授 高木 智久

講師 今井浩二郎

創薬医学

研究教授 堀中 真野

基礎老化学

講師 渡邊 義久

細胞再生医学

研究教授 戴 平

講師 倉橋 敏裕

医療レギュラトリーサイエンス学

教授 中島 宣雄

●臨床医学

内科学教室

内分泌・免疫内科学部門

教授 福井 道明

病院教授 川人 豊

講師 河野 正孝

講師 濱口 真英

循環器・腎臓内科学部門

教授 的場 聖明

【副学長】

病院教授 中村 猛

准教授 全 完

講師 玉垣 圭一

講師 白石 裕一

講師 星野 温

呼吸器内科学部門

教授 高山 浩一

准教授 山田 忠明

講師 徳田 深作

消化器内科学部門

准教授 小西 英幸

准教授 山口 寛二

講師 吉田 直久

講師 石川 剛

講師 森口 理久

講師 十亀 義生

講師 土肥 統

血液内科学部門

教授 黒田 純也

【内科代表】

准教授 志村 勇司

脳神経内科学部門

教授 尾原 知行

准教授 笠井 高士

講師 能登 祐一

講師 水田依久子

外科学教室			リハビリテーション医学教室			放射線医学教室		
消化器外科学部門	教授	塩崎 敦		教授	三上 靖夫		教授	山田 恵
	准教授	藤原 斉	産婦人科学教室	准教授	沢田光思郎		【国際学術交流センター長】	
	講師	森村 玲		教授	森 泰輔	麻酔科学教室	准教授	鈴木 弦
	講師	小西 博貴		准教授	藁谷深洋子		講師	赤澤健太郎
	講師	山本 有祐		講師	伊藤 文武		講師	渡邊 啓太
移植・一般外科学部門			小児科学教室	講師	寄木 香織		教授	天谷 文昌
	講師	昇 修治					【教育センター長】	
内分泌・乳腺外科学部門				教授	家原 知子		准教授	上野 博司
	教授	直居 靖人		准教授	土屋 邦彦		准教授	小尾口邦彦
		【外科代表】		准教授	大曾根真也		講師	小川 寛
心臓血管・小児心臓血管外科学部門	准教授	阪口 晃一		講師	池田 和幸		講師	石井 祥代
	教授	小田晋一郎		講師	柳生 茂希		講師	内藤 慶史
	准教授	神田 圭一	眼科学教室	講師	宮地 充	感染制御・検査医学教室	教授	貫井 陽子
	講師	川尻 英長		教授	外園 千恵		病院教授	稲葉 亨
呼吸器外科学部門				准教授	上野 盛夫		講師	山野 哲弘
	教授	井上 匡美		講師	稗田 牧	救急医療学教室		
	准教授	下村 雅律		講師	渡辺 彰英		講師	山畑 佳篤
小児外科学部門			皮膚科学教室			病理学教室		
	教授	小野 滋		教授	福本 毅	臨床病理学部門		
	准教授	文野 誠久		准教授	益田 浩司		教授	小嶋 基寛
形成外科学部門				講師	浅井 純	総合医療・地域医療学教室	教授	四方 哲
	病院教授	沼尻 敏明	泌尿器科学教室	講師	峠岡 理沙		講師	松原 慎
	講師	河原崎彩子		教授	浮村 理	歯科		
脳神経外科学教室				【副学長・総合情報センター長】			講師	山本 俊郎
	教授	橋本 直哉		准教授	本郷 文弥	京都府発達行動医学講座（連携講座）	教授	栞原 康通
		【副学長】		准教授	奥見 雅由	京都府小児地域医療学講座（連携講座）	教授	秋岡 親司
	講師	高橋 義信		講師	内藤 泰行			
	講師	山中 巧		講師	藤原 敦子	分子診断・治療医学	准教授	千代延友裕
整形外科学教室			耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室					
	教授	高橋 謙治		教授	平野 滋			
	准教授	小田 良	精神医学教室	准教授	瀧 正勝	●教育センター		
	准教授	長江 将輝					講師	金子 美子
	講師	岡 佳伸		教授	成本 迅	●中央研究室		
	講師	外村 仁		准教授	富永 敏行	RIセンター		
	講師	井上 敦夫		講師	中前 貴			
	講師	土田 真嗣		講師	綾仁 信貴			
	講師	木田 圭重		講師	加藤 佑佳			
	講師	堀江 直行						
スポーツ・障がい者スポーツ医学教室						実験動物センター	研究教授	勝山 真人
	准教授	新井 祐志					准教授	大塚 哲
	講師	中川 周士						

■ 北部キャンパス長兼医療センター所長 加藤 則人

■ 附属北部医療センター 病院長 落合登志哉

■ 看護学科

●看護学講座

基礎看護学領域

教授 内海 桃絵
准教授 滝下 幸栄
講師 山本 容子

看護倫理・管理学領域

教授 宮田 千春

成人看護学・がん看護学領域

教授 吉岡さおり
【看護学科長】
准教授 室田 昌子
准教授 林 容子
講師 佐伯 良子
講師 越智 幾世

精神看護学領域

教授 郷良 淳子
講師 占部 美恵
講師 柱谷久美子

小児看護学領域

准教授 原田 清美
講師 山口 未久

母性看護学・助産学領域

教授 高橋 由紀
講師 吉岡友香子

老年・在宅看護学領域

教授 毛利 貴子
准教授 伊藤 尚子
講師 川上 祐子

地域看護学領域

教授 志澤 美保
准教授 細川 陸也

●医学講座

呼吸器外科学領域

教授 島田 順一

産婦人科学領域

教授 楠木 泉

小児科学領域

教授 森本 昌史

（令和7年7月1日現在）

数字でみる府立医大の「実力」

30

【THE世界大学ランキング2025】

日本の**上位30大学**にランクイン

<https://between.shinken-ad.co.jp/assets/b8ae921879ecab05947887966e6cecb64923d8fd.pdf>

※THEは、イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education (THE)」が毎年発表している世界大学ランキングです。



4

【THE日本大学ランキング2024】

「教育リソース部門」で東京医科歯科大、東京大などに次ぎ、**全国第4位**

<https://japanuniversityrankings.jp/rankings/pillar-ranking/>



1

【2024科学研究費補助金総額】※教員1人あたり

全公立大学(102大学)中、**第1位**国公立医科大学(26大学)中、**第2位**

出典：AERAムック『大学ランキング2026』

1

【患者さんが評価する大学病院ランキング】

「患者を大切にしている大学病院」**第1位**「質の高い医療を提供している大学病院」**第3位**

<https://www.m3.com/lifestyle/1148206>

<https://www.m3.com/lifestyle/1143419>



研究活動 — junior scientist への誘い —

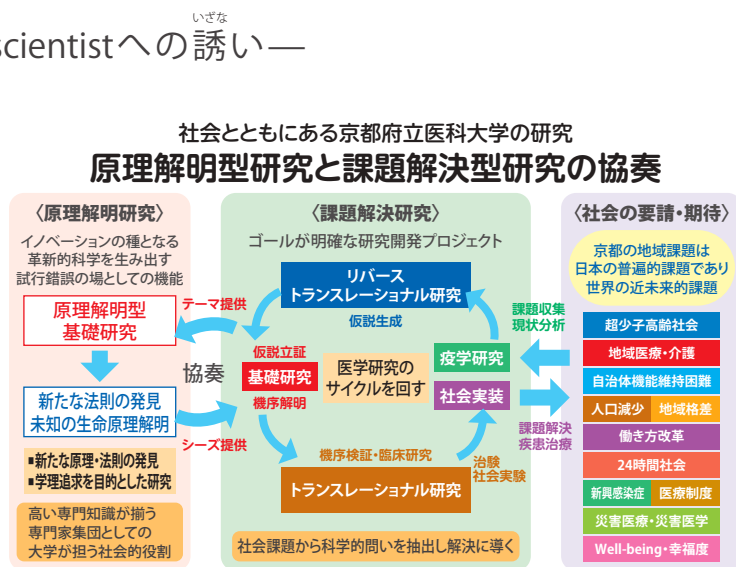
大学の存在意義の一つとして、自然や宇宙の成り立ち・法則を理解し、私たち自身を理解するといった、新たな「知」を生み出し体系化する『場』としての機能があります。大学には、さまざまな知識を持つ多様な人たちが集い、議論し、切磋琢磨することで、さらなる「知の創造」へとつながっていきます。また、大学で生み出された「知」は、しばしば不可能を可能にする技術革新として社会に還元され、「役に立つ知識や技術」となって私たちの目の前に現れます。このような、未解決課題を解決に導く技術革新を「イノベーション」と呼びますが、最近のAI(人工知能)の爆発的な進歩と普及はその最たるものといえます。新たな「知」を生み出す営みも、社会に役立つ「イノベーション」の芽を育てることも、これらはすべて「研究」と呼ばれる活動になります。京都府立医科大学において「研究」はどのように位置付け、何を目指しているのでしょうか？

本学では、研究ビジョンとして「原理解明型研究と課題解決型研究の協奏」を掲げています。「原理解明型研究」とは、「不思議だな」という興味から出発し、自然現象の法則を発見しその背後にある原理を解明するという、新たな「知の創造」を追求する研究です。自由な発想に基づく基礎研究と言われるタイプの研究の多くはこちらに属します。一方で、「課題解決型研究」はイノベーション創出が目的であり、人々の困りごとや社会課題など、解決が切望されているニーズに応える研究になります。治療法がない疾患を治す薬の開発や機器の開発など、特に臨床医学においては多くの医学研究はこちらに属します。どちらが良いというわけではなく、上述の通り両方とも科学の進歩には欠かせません。

私たち京都府立医科大学では、この二つのタイプの研究をうまく連動させる「協奏的研究」を目指します。医学部では、やはり患者さんを救うという視点になるので、課題解決型研究を重視しがちですが、医学が進んだ現在でもいまだに有効な治療法がない疾患は多くあります。もっと言えば、健康であることの原理やメカニズムについても、理解されていないことばかりといっても過言ではありません。つまり、課題解決型研究を成功に導く研究サイクルを回すためにも、未知の法則や原理の解明が不可欠なのです。そこで本学では、人々の健康に貢献し病から救うという医学の原点に軸足を置く大学として、「原理解明型研究と課題解決型研究の協奏」によって、地域社会・日本・世界に医学で貢献することを研究活動の目標としています。大学の理念である「世界トップレベルの医学を地域へ」の実現には、医学を推し進める世界レベルの研究が必要であり、実際に本学では基礎的な生命科学研究から疾患治療の医学研究まで、さまざまな世界レベルの研究が展開されています。

これまで、本学の先輩たちには、原理解明型研究でも課題解決型研究でも世界トップレベルの研究を展開してきた研究者も多く、学内だけでなく日本中・世界中で現在も活躍しています。学生時代にぜひ皆さんもサークル感覚で研究を体験してみませんか。学生生活に彩りを与えてくれる体験になること間違いありません。

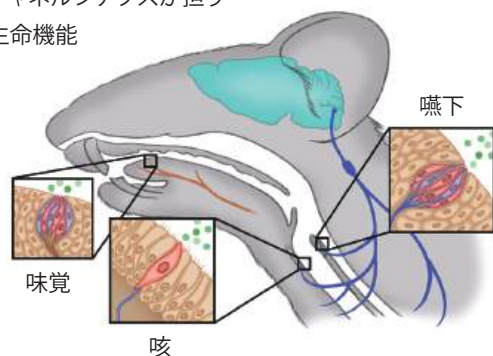
多彩な才能を伸ばし多様で越境的な人材を育成



研 究 活 動 —最前線のトピックから—

【外界からの刺激に対する生体応答メカニズム】

チャンネルシナプスが担う
生命機能



上皮は体の外と内を隔てる薄い組織です。私たちの体は、この上皮に備わる感覚機能を用いて外界の化学的（味や匂いなど）および物理的（音や光など）な環境変化を感知し、その情報を脳に伝えることで適切な行動を引き起こします。私たちはマウスを用いて、上皮が化学物質を感知する細胞や分子の仕組みを研究しています。例えば、上皮細胞は感覚情報を脳へと伝えるために、神経細胞と情報をやり取りする必要があります。私たちは、味覚を受容する舌上皮において、上皮と神経の接点にのみ見られる新たな情報伝達機構を発見し「チャンネルシナプス」と名付けました（Nature 2013, Neuron 2020他）。最近、この機構をもつ上皮細胞を全身にわたり探索した結果、喉の上皮に咳反射や飲み込み（嚥下）を引き起こす新たな感覚細胞を発見しました（Cell 2025）。これらの発見は医学の教科書の記述を塗り替えるとともに、止まらない咳などの疾患に対する創薬の糸口として現在もさらに研究が進んでいます。

（生理学教室 細胞生理学部門 教授 樽野 陽幸）

【泌尿器科：AI支援低侵襲手術法の開発】

臨床医学系における目標は、新時代に求められる医療をできるだけ早く実現し現場にお届けすること、すなわち、臨床現場の未解決課題を、最新の医学的叡智を集結して解決し、「新しい治療の研究開発」については「病態の制御」と「生活の質の維持」との両立を図れるように改善すること、また、「新しい検査の研究開発」については、身体への負担が最小限でありながら、診断精度を向上し、病態に特異的な治療方針の決定に役立ち、患者個々の希望にも応えられる結果を得ることです。本学には大学附属病院に加えて、京都府とその近隣の地域に関連病院が多数ありますし、京都府には世界に通用する大企業やユニークな中小企業があります。泌尿器科ではそのような関連病院や企業と緊密に協力し、医療現場にできる限り早く社会実装できるように研究開発を進めています。具体的には、従来治療の欠点を改善できる新しい手術、すなわち、低侵襲に性功能温存・排尿機能維持が可能となる「前立腺がんに対する癌標的化手術」の開発や、無侵襲に採取できる自然排尿から、治療すべき膀胱がんを正確に発見できる「尿細胞診断支援AI（人工知能）」を開発しており、これらの社会実装は目前です。



（泌尿器科学教室 教授 浮村 理）

【すべてのお子さまとお母様にも当たり前のケアとして早期母子接触を】



妊娠・出産は、家族の出会いの時です。家族の出会いを支える安全で効果的な看護を提供することは医師・助産師にとって責務です。当研究室では、出生直後からの早期母子接触（出生直後から中断なくお母さんがお子さんを抱っこすること）の効果検証、国際ガイドラインの作成に携わっています。この早期母子接触は、世界保健機構が推奨し、母乳栄養の確立や母子関係構築に寄与するだけでなく、電気や医療機器が十分に使用できない国や地域、災害時に重要な役割を果たし、新生児死亡率の低下に貢献してきた看護実践の1つです。しかしながら、その実践方法は施設によって様々で、効果的な方法は明確になっていません。私たちは、世界各国で蓄積された研究成果と実情を考慮し、医師・看護師・助産師の立場を超えて、生まれてくるお子さんとその家族にとって最善の安全で効果的な方法を検証しています。

（母性看護学・助産学領域 教授 高橋 由紀）

教育・研究施設、附属・関連施設紹介

シミュレーターを用いた実習

本学では、医学科及び看護学科の実習にシミュレーターを積極的に活用しています。シミュレーターは、人の全身や、胸部、腹部など身体の一部について、神経や血管、臓器を含め再現したもので、パソコンと接続し、血圧や心電図などバイタルサインを測定できるものもあります。病院実習に先立ち、シミュレーターを用いて人を対象とした検査、診断、診療の練習をします。一般向けにも、消防署での救命講習会で心肺蘇生（心臓マッサージ）の練習をする際に、胸部のシミュレーターが使われています。



小児看護学領域は、コロナ禍以降にさまざまなシミュレーション教育を実践しています。その一つとして、看護学生が臨地実習前にヘッドマウントディスプレイを装着し、開発したVirtual Reality(以下「VR」)教材を視聴し、子どもへバイタルサイン測定をしている状況を疑似体験しています。その教材は、シナリオの作成、撮影、編集までを教員が作成したオリジナル映像です。そのVR教材は、看護師の目線と子どもの目線からの映像となっており、子どもへの看護のイメージ化を図ると共に看護師の「子どもの安全を守る視点」を学べます。

共焦点レーザー顕微鏡

学内の共同利用研究施設である中央研究室には、共焦点レーザー顕微鏡と呼ばれる特殊な顕微鏡が2台設置されています。これらの顕微鏡は通常の顕微鏡と異なり、比較的厚みのある試料でも極めて高い分解能で鮮明な画像を得ることができるため、細胞内の微細構造、生きた細胞内での分子の動き、さらには組織の3次元的な構築の様子を観察する医学生物学の研究にとって不可欠のツールとして、学内の多くの研究者、学生の日々の研究に利用されています。



リアルタイムPCR



皆さんが持っている遺伝子の本体はDNAです。PCRはこのDNAを指数関数的に増幅する手法であり、その発明はノーベル化学賞を受賞しています。本学に設置されているPCR装置QuantStudio3は、DNAの増幅をリアルタイムに検出することができるため、迅速かつ定量性のある評価を行える最新機器です。QuantStudio3を用いて、遺伝子発現の解析、遺伝子変異の検出、新型コロナウイルスやノロウイルスなどの感染症のウイルス検出、がんなどの疾患マーカーの検出、iPS細胞の分化誘導の解析などを行えます。学部生でも、研究室で実験をすることによって、このような先端機器を使用することができます。

Koto Square（ラーニングコモンズ）

附属図書館1階に新設された「Koto Square」は、学生・教職員・地域の方々が集い、学び合うラーニングコモンズです。可動式家具やICT機器を備えた柔軟な空間で、アクティブラーニングやグループワーク、集中した個別学習まで多様なスタイルに対応します。京都産木材を活かした空間は、活動的な学びの場でありながらも、心地よさと温かみを感じられる設計が魅力です。名称に込められた「古都」「言」「事」「琴」の意味が交わり、知識と心が響き合うこの場所は、医療の未来を担う学生の成長と、地域とのつながりを育む新たな拠点となります。



京都府立医科大学附属病院



京都府立医科大学附属病院は、鴨川と京都御所を望む緑豊かな環境の中で、高度で専門的、かつ安全な医療を提供しています。毎日約2000人の外来患者さんが訪れ、最新の医療機器を備える病棟は病床数650床で運用しています。府民の総合的な健康管理の中核となる医療機関として、最適な医療サービスを提供できる環境を備えています。本院は、特定機能病院、病院機能評価認定(3rdG:Ver2.0)、都道府県がん診療連携拠点病院、小児がん拠点病院、第一種感染症指定病院、京都府総合周産期母子医療センター、地域災害拠点病院などの指定を受けており、各分野で専門性の高い診療を行っています。また併設する永守記念最先端がん治療研究センターでは、京都府で唯一の陽子線治療を行っています。令和6年度には京都府より救命救急センターの指定を受け、7,000件/年以上の救急搬送を受け入れています。附属病院は、一般の患者さんを診療するとともに、医学部の教育の中で大切な臨床実習の場でもあります。医学科、看護学科の学生はここで実地臨床の基礎を学び、さらに最先端の医学・医療に接しながら、医師・看護師としての基本的な心構えと知識・技能を身につけます。

京都府立医科大学附属北部医療センター

京都府立医科大学には海の京都にもう一つのキャンパスがあります。天橋立に面したこのキャンパスの中核をなすのが附属北部医療センターです。丹後医療圏の大学附属病院として、「信頼される全人的医療」を理念として大学附属病院同様、世界トップレベルの医療を地域に提供しています。ここには医大GPやCCIIの臨床実習、更には3ヶ月にわたる長期滞在実習等、医学科や看護学科の学生が時節勉強に訪れています。さらに昨年から始まった、地域枠学生でも義務年限中に学位取得が可能な社会人大学院である北部地域大学院では、今年も新たな医師学生を迎え、地域課題をテーマに順調に研究が進んでいます。地域医療は日本のどこでも起こりつつある高齢化、人口減少、医療資源の不足といった状況に対処する医療、そして地域包括ケアを支える医療です。北部医療センターでは市内の附属病院とは異なる地域ならではの特色を持った医療・看護、教育、研究を推進しています。



附属図書館

附属図書館は広小路キャンパスにあります。和書・洋書を合わせて約9万冊の図書と、8400種類の雑誌、11000以上の電子ジャーナル、文献検索等のデータベースが利用できます。閲覧室に加えて、Koto Square、AVルーム、セミナー室、ブラウジングルーム、情報検索室があり、グループ学習や研究会などの場として利用されています。



教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」

府立植物園の東隣の下鴨キャンパスにあります。京都府立医科大学、京都府立大学、京都工芸繊維大学の三大学で、月曜日午後には共同の教養教育を行う施設です。京セラの故稲盛和夫氏のご寄付により2014年(平成26年)に竣工しました。また、医学科の1年生は、入学から翌年1月まで、ここを拠点として講義を受け学習します。



永守記念最先端 がん治療研究センター

2017年(平成29年)、日本電産株式会社(現ニデック株式会社)会長の永守重信氏より、がん治療研究施設および陽子線治療装置のご寄付を受け、本センターが開設されました。京都府内で唯一のがん陽子線治療施設であり、多くの患者さんの陽子線治療を担うとともに、高度ながん予防・診断・治療の研究を推進しています。

卒業後の進路、減免・奨学金制度等

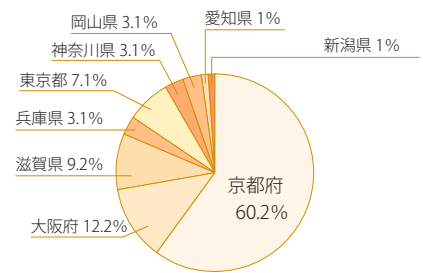
主な就職先 卒業後は京都市内を中心に様々な医療機関や地方公共団体などへ

医学科 (1年目臨床研修病院)

本学附属病院
 本学附属北部医療センター
 京都大学医学部附属病院
 京都市立病院
 綾部市立病院
 宇治徳洲会病院
 京都医療センター
 京都岡本記念病院
 京都桂病院
 京都鞍馬口医療センター
 京都済生会病院
 京都第一赤十字病院
 京都第二赤十字病院
 京都中部総合医療センター
 京都山城総合医療センター
 武田総合病院
 舞鶴医療センター
 洛和会音羽病院
 市立大津市民病院
 淡海医療センター
 近江八幡市立総合医療センター
 済生会滋賀県病院
 大阪大学医学部附属病院
 大阪急性期・総合医療センター
 大阪市立総合医療センター
 地域医療機能推進機構大阪病院
 大阪赤十字病院
 高槻病院
 枚方公済病院
 松下記念病院
 兵庫県立尼崎総合医療センター
 明石市立市民病院

宝塚市立病院
 東京医科大学病院
 国立国際医療研究センター病院
 東京都立墨東病院
 東京都立多摩総合センター
 聖路加国際病院
 東京新宿メディカルセンター
 虎の門病院
 湘南厚木病院
 湘南鎌倉総合病院
 湘南藤沢徳洲会病院
 佐渡総合病院
 JA愛知厚生連安城更生病院
 岡山大学病院
 倉敷中央病院

医学科卒業生1年目臨床研修病院 都道府県別割合 (令和6年度卒業生)



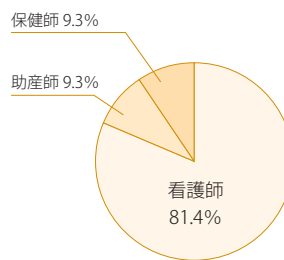
看護学科

(就職)
 本学附属病院
 京都大学医学部附属病院
 足立病院
 京都第二赤十字病院
 京都民医連中央病院
 西陣病院
 三菱京都病院
 洛和会音羽病院
 大阪大学医学部附属病院
 医学研究所北野病院
 神戸大学医学部附属病院
 兵庫県立西宮病院
 神戸市立医療センター中央市民病院
 神戸赤十字病院
 滋賀県立総合病院
 北里大学病院

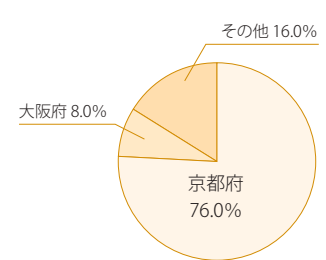
慶応義塾大学病院
 順天堂大学医学部附属順天堂医院
 国立がん研究センター中央病院
 虎の門病院
 京都府
 京都市
 大津市
 枚方市
 福井市
 徳島県

(進学)
 本学医学研究科修士課程
 京都光華女子大学助産学専攻科
 宝塚大学助産学専攻科
 愛仁会看護助産専門学校助産学科

看護学科卒業生 職種別就職状況 (令和6年度卒業生)



看護学科卒業生 都道府県別就職先 (令和6年度卒業生)



京都府には、本学附属病院(全体の57.9%)を含む。

減免・奨学金制度等

入学金、授業料の減免や奨学金など、経済状況に応じた学費支援制度が利用可能です。

入学科

- **医学科** 府内在住: 282,000円 府外在住: 493,000円
- **看護学科** 府内在住: 169,200円 府外在住: 282,000円

授業料(年額)

535,800円(前・後期の区分による年2回の分納となります。)

※金額は令和6年度の金額です。

入学科・授業料の減免

● 入学科の減免

学資困難その他の事情があると認められた者に対しては、入学科が減免、または徴収猶予される場合があります。

● 授業料の減免

成績が良好で、学資困難その他特別の事情があると認められた者に対しては、授業料が減免されます。

本学は「大学等における修学の支援に関する法律」が適用されている大学であり、日本学生支援機構の給付型奨学金(多子世帯支援含む)の受給者は国の減免制度が適用されます。

下宿等

本学には学生寮はありませんが、大学の町・京都には昔ながらの下宿から、ワンルームマンションまで、学生向けの賃貸住宅が豊富です。

奨学金

● 日本学生支援機構奨学金(貸与奨学金)

優れた学生で、経済的理由により修学が困難な人に貸与されます。

種類	貸与月額
第一種奨学金 (無利子)	自宅通学 20,000円、30,000円または45,000円
	自宅外通学 20,000円、30,000円、40,000円または51,000円
第二種奨学金 (有利子)	20,000円～120,000円 (10,000円刻み)
入学時特別増額 奨学金(有利子)	入学月の基本月額に10万円、20万円、 30万円、40万円、50万円を増額

※貸与月額は令和6年度の金額です。

● ENT M Dr.浅野登&暉子奨学金

次世代を担う医師の育成を図るため、向学心がありながら経済的理由により修学が困難な人に、修学上必要な学資金(奨学金)を大学在学の期間支給することで修学援助を行う制度です。

● その他の奨学金

その他、地方公共団体や民間の事業団体による奨学金制度があります。

減免・奨学金制度についての詳細は、教育支援課(075-251-5228)へお問い合わせください。

入学試験情報

令和8年度 入学試験情報(予定)

学科	試験区分	募集人員	出願期間	試験日
医学科	一般選抜(前期日程)	94	令和8年1月26日(月)～2月4日(水)	令和8年2月25日(水)、26日(木)
	学校推薦型選抜(地域枠)*	7	令和8年1月21日(水)～1月30日(金)	令和8年2月7日(土)
	学校推薦型選抜(全国一般枠)	5	令和8年1月21日(水)～1月30日(金)	令和8年2月8日(日)
看護学科	一般選抜(前期日程)	45	令和8年1月26日(月)～2月4日(水)	令和8年2月25日(水)
	学校推薦型選抜 (大学入学共通テストを課さない)	40	令和7年11月4日(火)～11月11日(火)	令和7年11月29日(土)

※一般選抜(後期日程)は実施しません。試験の詳細については、必ず各学生募集要項で確認してください。

※一般選抜(前期日程)においてインターネット出願を導入します。詳細は、今後ホームページで公表しますので確認してください。

※医学科学校推薦型選抜(地域枠)に合格・入学した学生には、「京都府キャリア形成プログラム等」が適用されます。詳細は右記のQRコードでアクセスしてください。



令和7年度 入学試験結果

試験区分別実施状況

学科	試験区分		募集人員	志願者数	第1次段階 合格者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率
医学科	一般選抜(前期日程)		99	267	267	255	101	101	2.7
	男女別	男子		157	157	148	63	63	
		女子		110	110	107	38	38	
	現浪別	現役		141	141	136	57	57	
		現役以外		126	126	119	44	44	
	学校推薦型選抜		7	29	21	21	7	7	4.1
	男女別	男子		16	12	12	4	4	
		女子		13	9	9	3	3	
	現浪別	現役		20	12	12	5	5	
		現役以外		9	9	9	2	2	
看護学科	一般選抜(前期日程)		45	83	83	79	46	45	1.8
	男女別	男子		3	3	3	1	1	
		女子		80	80	76	45	44	
	現浪別	現役		77	77	74	44	43	
		現役以外		6	6	5	2	2	
	学校推薦型選抜		40	78	-	78	40	40	2.0
	男女別	男子		8	-	8	5	5	
		女子		70	-	70	35	35	

※一般選抜(後期日程)は実施していません。※看護学科学校推薦型選抜は、現役生のみ対象です。

一般選抜(前期日程)合格者の得点

学科	最高点			最低点			平均点			配点		
	共通テスト	個別学力検査	合計	共通テスト	個別学力検査	合計	共通テスト	個別学力検査	合計	共通テスト	個別学力検査	合計
医学科	478.5	410.0	869.5	390.5	254.0	695.5	433.8	321.3	755.1	500	600	1100
看護学科	856.0	265.0	1106.0	672.0	153.0	892.0	736.4	212.1	948.6	1000	300	1300



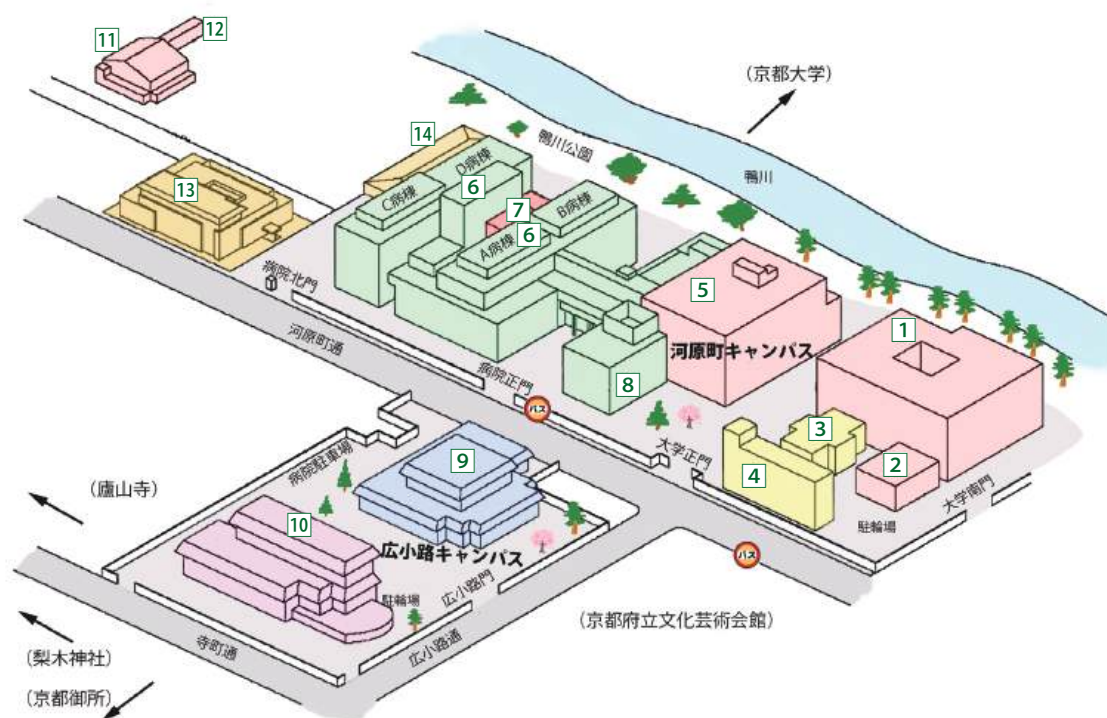
詳細はこちらから(https://www.kpu-m.ac.jp/doc/examination/exam_gakubu/result.html)

キャンパスマップ（河原町・広小路）・交通アクセス

附属病院を併設する河原町キャンパスと広小路キャンパスは京都市内の中心部に位置しており、アクセスは抜群です。美しい鴨川沿いにある河原町キャンパスには教育・研究施設の他にも、カフェやレストラン、郵便局やコンビニなどがあり、キャンパスライフはとても快適です。



キャンパスマップ（河原町・広小路）



- | | |
|---|---------------------|
| ① 基礎医学学舎 | ⑦ 臨床講義棟 |
| ② 基礎医学学舎実習棟 | ⑧ E病棟(1F 郵便局、コンビニ) |
| ③ 大学本部棟 | ⑨ 附属図書館・合同講義棟 |
| ④ 管理棟
(1F 生協カフェテリア「ポレポレ」
2F 生協医学部店) | ⑩ 看護学学舎 |
| ⑤ 外来診療棟・臨床医学学舎 | ⑪ 体育館 |
| ⑥ 病棟(A・B・C・D)・中央診療棟 | ⑫ クラブボックス |
| | ⑬ 永守記念最先端がん治療研究センター |
| | ⑭ ロームBNCTセンター |



⑤ 外来診療棟・臨床医学学舎



① 基礎医学学舎

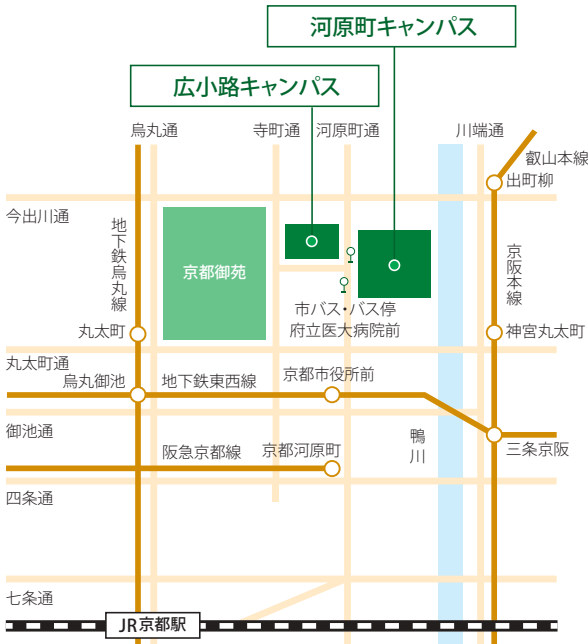


③ 大学本部棟



⑩ 看護学学舎

交通アクセス



河原町キャンパス

京都市上京区河原町通広小路上の梶井町465

広小路キャンパス

京都市上京区清和院口寺町東入中御霊町410(上京区広小路通河原町西入る)

JR京都駅(正面)から	市バス4, 7, 205系統	河原町・広小路キャンパス
阪急電鉄京都河原町駅から	市バス3, 4, 7, 205系統	
京阪電鉄三条駅から	市バス37, 59系統 京都バス 43系統	
京阪電鉄神宮丸太町駅から	徒歩約10分	
京阪電鉄出町柳駅から	徒歩約15分	



下鴨キャンパス(稲盛記念会館)

京都市左京区下鴨半木町1-5

JR京都駅・阪急烏丸駅から	地下鉄丸太線	「北山」下車	徒歩7分	下鴨キャンパス
京阪出町柳駅から	市バス1系統	「府立大学前」下車	徒歩5分	
JR二条駅から	市バス206系統		徒歩5分	



北部キャンパス(附属北部医療センター)

京都府与謝郡与謝野町字男山481番地

◆鉄道				北部キャンパス
JR京都駅から	特急はしだて 130分	「天橋立」下車	バス20分	
◆車				
京都市内	R9	沓掛IC	京都縦貫道 70分	
			与謝天橋立IC	R176・178 10分



京都府立医科大学
KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY OF MEDICINE

〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上的梶井町465
Tel. 075-251-5167 (教育支援課入試係)
<https://www.kpu-m.ac.jp>